

# 社会

## 社会性目標と実績

創業以来、一貫して「お客様第一」に徹し、CS経営を推進

お客様アンケートの分析とフィードバック

オーナー様とのぎずなが深まるコミュニケーションツール

賃貸住宅「シャームゾン」入居者の満足度向上

## 労働慣行

労働安全衛生マネジメントシステム

労働災害発生状況

施工現場での労働安全衛生活動

安全衛生教育研修の実施

## サプライチェーン

サプライチェーン・マネジメント

調達方針

お取引先との相互コミュニケーション

セキスイハウス協力会（福利厚生制度）

施工従事者のマネジメント

## 社会貢献

社会貢献活動の考え方・指針

住文化向上

住まいづくりに関する教室を開催

各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動  
オーナー様に呼びかけて「ぎずなガーデンコンテスト」を実施

次世代育成

環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施

「住空間ecoデザインコンペティション」「建築新人戦」を開催

「弁当の日」応援プロジェクトに参画

「エコ・ファーストの約束」で示した環境テーマが体験できる公開施設「積水ハウス エコ・ファースト パーク」

キッズデザイン協議会

環境配慮

「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動

「グリーンファースト」推進による埼玉県での環境保全活動

地域社会への貢献

経年美化のまちづくり

「ひとえん」づくりによるコミュニティの醸成

既存郊外住宅地の持続可能な住環境の実現を目指す取り組み

災害時の復旧支援体制

「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力

公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

チャリティーフリーマーケットの実施

「こどもの日チャリティイベント」への参画

社会貢献活動社長表彰

障がい者の自立と社会参加を応援

芸術文化発信の拠点となる「絹谷幸二 天空美術館」

従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

災害義援金

自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み

## 社会性目標と実績

【自己評価の基準について】

○ … 目標を達成    △ … 達成できなかったが目標に近付いた    × … 目標に向けた改善ができなかった

### 製品責任

#### お客様満足度の向上

Plan	2016年度目標	オーナー様とのコミュニケーション強化、さらなるお客様満足度の向上
Do	2016年度の活動内容	CS経営に基づくオーナー様訪問強化、「Netオーナーズクラブ きずな」で月2回のコンテンツ更新、オーナー様向け情報誌の定期発行とアンケートの実施・分析・改善
Check	評価	○ お客様アンケートによる満足度調査で満足度95.5% 「Netオーナーズクラブ きずな」会員数26万8490人
Action	2017年度目標	オーナー様とのコミュニケーションを強化、さらなるお客様満足の向上を目指す
	関連する取り組み	<a href="#">お客様アンケートの分析とフィードバック</a> <a href="#">オーナー様とのきずなが深まるコミュニケーションツール</a>

#### 安全・安心・健康・快適な住まいづくり

Plan	2016年度目標	誰もが使いやすく心地よい「スマートUD」の住まいづくりを推進
Do	2016年度の活動内容	「安全・安心」+「使いやすさ」+「心地よさ」の三つの視点から住宅の部材や設計手法の開発に取り組む
Check	評価	○ 賞の創設以来9年連続で「キッズデザイン賞」受賞
Action	2017年度目標	誰もが使いやすく心地よい「スマートUD」の住まいづくりを推進
	関連する取り組み	<a href="#">積水ハウスの「ユニバーサルデザイン」</a> <a href="#">積水ハウスのキッズデザイン</a>

Plan	2016年度目標	制震システム「シーカス」※1搭載率95.0% 空気環境配慮仕様「エアキス」※2搭載率90.0%
Do	2016年度の活動内容	「シーカス」「エアキス」を積極的に提案
Check	評価	△ 「シーカス」搭載率※1 96% 「エアキス」搭載率※2 87%
Action	2017年度目標	「シーカス」搭載率※1 「エアキス」搭載率※2
	関連する取り組み	CSV戦略③技術開発・生産・施工品質の維持・向上 <a href="#">活動1：先進の技術で、さらなる安全・安心・快適を実現</a>

※1 鉄骨2階建て戸建住宅での割合

※2 鉄骨戸建住宅での割合

Plan	2016年度目標	体験型学習施設を有効活用し、安全・安心・健康・快適な住まいづくりをサポート
Do	2016年度の活動内容	積極的な来場の呼びかけ 来場者へのプレゼン・説明ツールの改善・改良
Check	評価	○ 年間来場者数 「納得工房」3万1395人 「住ムフムラボ」11万3312人 「エコ・ファースト パーク」4141人
Action	2017年度目標	体験型学習施設のより一層の有効活用と、来場者満足の向上
	関連する取り組み	<a href="#">R&amp;Dの拠点「総合住宅研究所」</a> <a href="#">参加・体験型施設「住まいの夢工場」</a> 、「 <a href="#">住ムフムラボ</a> 」 <a href="#">「エコ・ファーストの約束」で示した環境テーマが体験できる公開施設「積水ハウス エコ・ファースト パーク」</a>

Plan	2016年度目標	賃貸住宅入居者様とのコミュニケーションを強化、さらなる入居者満足 の向上
Do	2016年度の活動内容	入居者向けサービス「MASTクラブ」の充実等による安定した入居者層の 形成
Check	評価	○ 一括借上・管理室数 58万4096室、入居率96.5%
Action	2017年度目標	賃貸住宅入居者様とのコミュニケーションを強化、さらなる入居者満足 の向上
	関連する取り組み	<a href="#">賃貸住宅「シャームゾン」入居者の満足度向上</a>

## コミュニティの形成と地域文化の継承

Plan	2016年度目標	地域住民によるコミュニティづくり、地域文化継承をサポート
Do	2016年度の活動内容	「まちなみ参観日」「隣人祭り」の開催地を増やす
Check	評価	○ 「まちなみ参観日」（春・秋合計）戸建930会場、マンション20会 場 「隣人祭り」戸建33カ所（延べ36回）、マンション8カ所（延べ9 回）
Action	2017年度目標	地域住民によるコミュニティづくり、地域文化継承をサポート
	関連する取り組み	<a href="#">「ひとえん」づくりによるコミュニティの醸成</a>

従業員とともに

Plan	2016年度目標	より一層「従業員が幸せを感じ、生き生きと仕事ができる企業集団」となるよう多面的に取り組む
Do	2016年度の活動内容	各種制度の利用と周知を図り、企業理念に基づく活力ある企業風土を推進
Check	評価	○ 男性の育児休業取得人数436人 女性の育児休業取得後の復職率95.8% 有給休暇取得率35.0% 柔軟な勤務制度の活用人数1,000人
Action	2017年度目標	働き方改革による”わくわくドキドキする職場づくり”
	関連する取り組み	<a href="#">仕事と育児の両立サポート</a> <a href="#">ワーク・ライフ・バランスの推進</a> <a href="#">看護や介護、休職従業員へ向けた各種支援制度</a>

Plan	2016年度目標	生き生きと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
Do	2016年度の活動内容	「人材サステナビリティ宣言」に基づく重点テーマ施策の強化
Check	評価	○ 4度目の東証・経産省「なでしこ銘柄」選定、グループ女性管理職141人、2.79%
Action	2017年度目標	生き生きと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
	関連する取り組み	CSV戦略⑤ダイバーシティの推進と人材育成 <a href="#">活動1：ダイバーシティの推進</a> <a href="#">女性活躍推進法に基づく積水ハウスグループ 女性活躍推進行動計画</a>

Plan	2016年度目標	社内諸制度の利用を促し、障がい者を含む多様な人材の活用を促進
Do	2016年度の活動内容	各種制度の利用と周知を図る 障がい者雇用に向けて説明会等に積極的に参加
Check	評価	○ 職群転換制度活用 11人 退職者復職登録制度活用 3人 障がい者雇用率 2.20%
Action	2017年度目標	社内諸制度の利用を促し、障がい者を含む多様な人材の活用を促進
	関連する取り組み	<a href="#">社内公募制度</a> <a href="#">看護や介護、休職従業員へ向けた各種支援制度</a>

Plan	2016年度目標	労働安全衛生の一層の推進
Do	2016年度の活動内容	各事業所の安全衛生委員会の積極活用等
Check	評価	✕ 事務部門（単体）休業災害度数率0.16・業務上疾病度数率0.00 生産部門（単体）休業災害度数率0.40・業務上疾病度数率0.00 生産部門（委託業者）休業災害度数率1.22・業務上疾病度数率0.00 施工部門（委託業者のみ）休業災害度数率2.57・業務上疾病度数率0.34
Action	2017年度目標	労働安全衛生の一層の推進
	関連する取り組み	<a href="#">労働安全衛生マネジメントシステム</a> <a href="#">労働災害発生状況</a> <a href="#">施工現場での労働安全衛生活動</a> <a href="#">安全衛生教育研修の実施</a>

## サプライチェーン

### 協力工事店・取引先の皆様とともに

Plan	2016年度目標	取引先との健全な関係の継続
Do	2016年度の活動内容	「企業倫理要項」等のルールの徹底 方針説明会の実施 内部統制チェック項目の一つに下請取引に関するチェック項目を設定
Check	評価	○ 当該事業年度において協力工事店や取引先様との間で公正な取引に疑義のあるような問題は発生していない。ならびに、独占禁止法に抵触した事例はない。
Action	2017年度目標	取引先との健全な関係の継続
	関連する取り組み	<a href="#">サプライチェーン・マネジメント</a> <a href="#">お取引先との相互コミュニケーション</a> <a href="#">内部通報システムと公益通報者の保護</a> <a href="#">公正な取引</a>

## 地域貢献・社会貢献

### 住文化向上・教育支援

Plan	2016年度目標	自社の施設やノウハウを生かして、住文化向上や次世代育成に貢献する
Do	2016年度の活動内容	施設やカリキュラムの見直し・改善
Check	評価	○ 「すまい塾」年間受講者数 こだわり講座28人 公開講座364人 「Webすまい塾」申込み21件 「住空間ecoデザインコンペティション」全国28大学150作品応募
Action	2017年度目標	自社の施設やノウハウを生かして、住文化向上や次世代育成に貢献する
	関連する取り組み	<a href="#">「住空間ecoデザインコンペティション」</a> <a href="#">「建築新人戦」</a> を開催 <a href="#">環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施</a> <a href="#">従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」</a> <a href="#">R&amp;Dの拠点「総合住宅研究所」</a>

## 地域社会への貢献

Plan	2016年度目標	社会貢献活動の情報発信、共有と内容のさらなる充実
Do	2016年度の活動内容	SELP製品の積極的活用 森林保全活動など生態系保全に向けた活動への参加 メディアや社内誌を通じた社内外への発信
Check	評価	○ SELP製品のノベルティ採用数 2万4166個（累計31万個超） 「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動
Action	2017年度目標	社会貢献活動の情報発信、共有と内容のさらなる充実
	関連する取り組み	<a href="#">障がい者の自立と社会参加を応援</a> <a href="#">「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動</a>

Plan	2016年度目標	「積水ハウスマッチングプログラム」への従業員の活動理解と参加を促進
Do	2016年度の活動内容	社内ホームページや社内誌などを活用した周知活動、活動報告会の開催
Check	評価	○ 2016年度助成 27団体に3744万円（累計・延べ200団体に2億円超） 会員数：3634人
Action	2017年度目標	「積水ハウスマッチングプログラム」への従業員の活動理解と参加を促進
	関連する取り組み	<a href="#">従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」</a>

Plan	2016年度目標	神戸市における国際的・文化的コミュニティづくりに資する活動を助成
Do	2016年度の活動内容	公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」を通じた助成
Check	評価	○ 2016年度助成 31件の活動に1780万円（累計・4億4262万円）
Action	2017年度目標	神戸市における国際的・文化的コミュニティづくりに資する活動を助成
	関連する取り組み	<a href="#">公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」</a>



製品責任

## 創業以来、一貫して「お客様第一」に徹し、CS経営を推進

積水ハウスでは「人間愛」を根本哲学とする企業理念のもと「最高の品質と技術」を目指し、「人間性豊かな住まいと環境の創造」に取り組んでいます。創業以来「お客様第一」に徹した経営を貫き、すべてのお客様に生涯にわたって心から満足していただけるよう、「真のCS」の実現を目指して日々活動しています。

当社グループは、高い技術力・生産力・施工力により、営業・設計・生産・施工・アフターサービスなど、住まいづくりの全プロセスにおいて最高の品質、すなわち、お客様の信頼と満足を得ることのできる商品・サービスの提供を目指し、日々活動しています。

家族それぞれの身体機能の変化に合わせ、安全・安心で家庭内事故がなく、快適で暮らしやすい住まいを提供することは、住宅メーカーが果たすべき当然の製品責任であると考えています。

当社グループの「スマートユニバーサルデザイン」では、この基本的な考え方に加え、何気なく触れた時の感覚や、日常のちょっとした操作性、ふと目にした時の意匠の美しさなど、「からだやこころの素直な感覚=心地よさ」を大切にしたデザインの工夫を提案しています。

「安全・安心」+「使いやすさ」+「心地よさ」の三つの視点から、住宅の部材や設計手法の開発に取り組み、誰にとっても快適で、いつまでも愛着を持って暮らし続けることのできる住まいづくりを追求しています。

また、全社的な活動徹底のためにCS推進部を設置。お客様満足度向上のため、お客様の相談窓口を務めるとともに、お客様の暮らしをサポートする「Netオーナーズクラブ きずな」の運営や、アフターサービスを担当する全国のカスタマーズセンターのサポートを行っています。

加えて、カスタマーズセンターの定休日にお客様からの電話を受ける「休日受付センター」をCS推進部内に設け、緊急を要する用件については即日対応・手配する体制を整えています。



安全配慮引手  
(第10回キッズデザイン賞受賞)



フルフラットサッシ、フルフラットバルコニー  
(第5回キッズデザイン賞受賞)

【関連項目】

> [カスタマーズセンター](#)

製品責任

## お客様アンケートの分析とフィードバック

積水ハウスでは、「お客様アンケート」を実施しています。アンケートの結果を集計・分析し、調査結果を関係各部署にフィードバックして、製品およびサービスの安全衛生や日常の業務改善はもちろん、新たな部材や商品の開発、設計・施工の改善などに役立てています。

### さらなる品質向上とサービス充実のために

当社は、提供した住宅商品・サービスについて、オーナー様に評価していただく「お客様アンケート」を実施しています。戸建住宅のオーナー様には、着工前、入居時、入居後など住まいづくりのプロセスに沿って、アンケートを実施しています。「着工前お伺い書」は、納得いただいていない事柄を明らかにすることにより、不安を解消し、着工後の業務をよりスムーズに行うことが目的です。「入居時アンケート」では、打ち合わせから施工までの各業務プロセスにおける満足度などを確認しています。さらに、「入居後1年アンケート」では、設計提案内容や使い勝手の満足度、アフターサービスの評価などを確認しています。また、賃貸住宅「シャームゾン」のオーナー様には、「引き渡し後2年アンケート」を実施しています。

「入居時アンケート」「入居後1年アンケート」については、2012年8月度調査分から、当社オーナー様向け会員制サイト「Netオーナーズクラブ きずな」からも回答ができるようになり、利便性が向上しました。

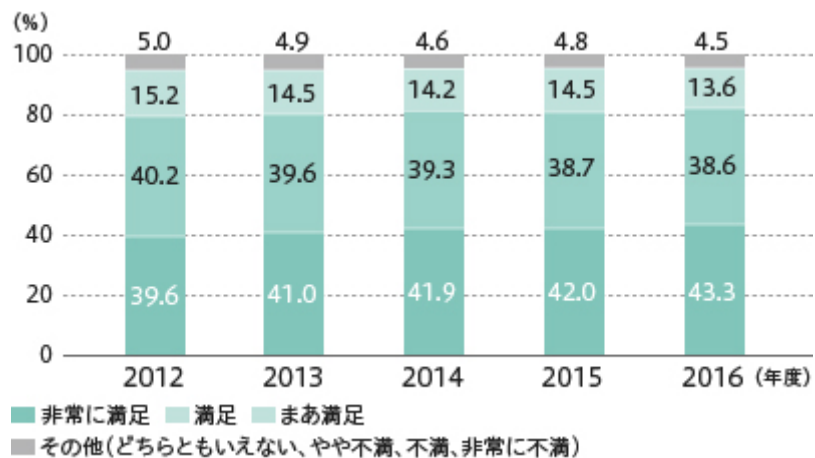
アンケートでは、総合満足度、建物の出来栄え、推薦意向、各部位の満足度、創エネ機器の満足度、当社各担当者に対する満足度などを伺います。お客様一人ひとりが、住まいの品質および各担当者から提供されたサービスの内容に満足されているかを確認し、今後の品質向上とサービス充実に努めるとともに、不満や不具合がある場合は迅速に対応して解消・改善します。また、自由記述欄を多く設け、こだわりや要望、実際に生活してみたの感想など、お客様の生の声を知ることができるよう配慮し、お客様の多様な意見を、お客様の視点に立った住まいづくりとして生かせるよう取り組んでいます。

アンケートの結果を集計・分析し、調査結果を関係各部署にフィードバックして、製品およびサービスの安全衛生や日常の業務改善はもちろん、新たな部材や商品の開発、設計・施工の改善などに役立てています。



提供した商品・サービスに対して、満足いただけたかを「お客様アンケート」でチェック

## ■ お客様アンケート 満足度調査（7段階評価）



※ グラフの横軸（年度）は、調査年度です。

2016年度上期は「非常に満足」の割合が過去最高を更新し、これまでのお客様アンケート結果を踏まえた改善の取り組みが奏功しているものと考えています。「非常に満足」とお答えいただいたお客様は、営業担当はもちろん、設計担当、建築担当やアフターサービス担当の総合力に大きく満足されていることがうかがわれます。また、ご不満との回答をいただいたお客様には職責者がお会いして、ご不満の因子を取り除くべく対応しています。

ただ、全体の4割のお客様に「非常に満足」とお答えいただいたに過ぎず、アンケート結果をもとにお客様の年齢や家族構成ごとの分析などをさらに進めて、お客様満足度のさらなる向上を目指します。

なお、本年は製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した安全衛生に関する規制および自主的規範の違反はありません。

製品責任

## オーナー様とのきずなが深まるコミュニケーションツール

積水ハウスは、新築されたお住まいの引き渡し後も会員制ホームページや定期発行の情報誌などを通じて、オーナー様への情報提供とコミュニケーション活動を継続し、オーナー様とのきずなを深めています。

### 「きずな」をはじめとするオーナー様向け情報誌

戸建住宅のオーナー様に「いつもいまが快適」な暮らしをサポートする情報誌「きずな」を年2回、住まいづくりを通して結ばれたきずなを大切に、オーナー様の住まいと幸せな暮らしを生涯にわたって見守り続けたいという思いを込めて発行しています。1975年の創刊から、2016年末までに134号を発行しました。

「きずな」では、長くお住まいいただくために必要な情報や、毎日の暮らしに役立つ情報を、実例を交えながら具体的に紹介しています。また、オーナー様同士のコミュニケーションの場としても好評をいただいています。

2016年9月に発行した134号は、「続ける”防災”特集。万一の時に頼りになるのは、日々の備えと、人と人のきずな、地域のコミュニティですが、どうしても防災意識は薄れてしまいがち。「ローリングストック法」など楽しみながら続けられる防災情報や、いざという時の「緊急時マニュアル」など、「もしも」の備えについての情報を掲載しています。



また、「シャーメゾン」（当社の低・中層賃貸住宅商品の総称）のオーナー様には、年に2回、情報誌「Maisowner(メゾナー)」を配布しています。最新の賃貸住宅の動向や事例紹介のほか、税・法律の知識、リフォーム提案など、賃貸住宅経営や資産運用に役立つ情報を掲載しています。分譲マンション「グランドメゾン」のオーナー様については、年3回、情報誌「gm(ジーエム)」を配布。全国の物件紹介や快適な暮らしの提案、生活リテラシーなど幅広い情報を提供しています。

### 快適生活サポートサイト「Netオーナーズクラブ きずな」

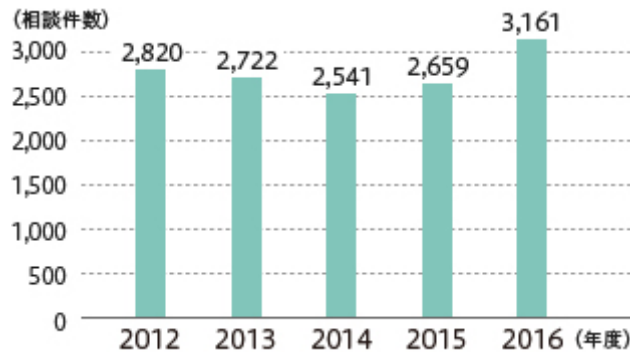
当社のオーナー様専用の会員制ホームページ「Netオーナーズクラブ きずな」（会員数26万8490人）では、毎日の快適な暮らしと住まいをサポートする、さまざまな情報を提供しています。住まいのメンテナンスやリフォーム、インテリアやガーデニングに関する情報や、お役立ちグッズ・アイテムを紹介。多彩なコンテンツでオーナー様と双方向のコミュニケーションを深めています。

当社ならではのお手入れ情報やアドバイスを部位別に詳しく紹介する「メンテナンス」のコーナーでは、オーナー様ご自身で行うことが可能な修理・調整の方法を動画で見ることができます。携帯電話やスマートフォンの画面を見ながらお手入れや修理ができるよう、モバイルサイトも用意。QRコードを読み込んで簡単にアクセスすることができます。

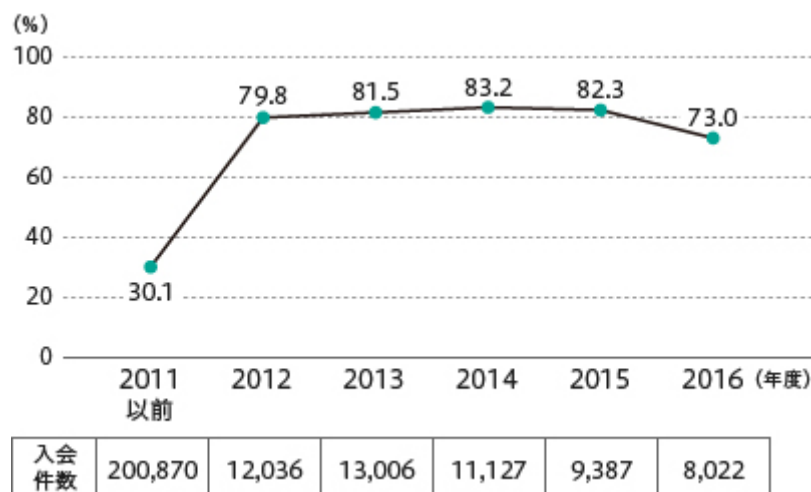


お手入れ、リフォーム、インテリア、ガーデン、住まいの保険など、住まいに関する疑問や悩みをインターネットで気軽に相談できる「相談室」も設けています。質問や相談には、各部門の専門スタッフが直接お答えします。

### ■ Netオーナーズクラブ「相談室」経由のカスタマーズセンター相談件数



### ■ Netオーナーズクラブ加入率



2013年、NetオーナーズクラブとHEMSを連携させた対話型HEMS「あなたを楽しませ隊」を開発し、運用を開始しました。エネルギー情報を分かりやすく、楽しく見える化し、「家」と「お客様」の情報を一元管理。電力使用量などの情報に加え、防犯情報や天気予報などの地域ごとの情報など、きめ細やかなサービスを提供しています。



## これまでの取り組み

1971年	お客様向け情報誌「住居瑠（スマイル）」創刊（現在は廃刊）
1975年	戸建住宅のオーナー様向け情報誌「きずな」創刊
1986年	新規・継続のお客様向け情報誌「こんにちは」創刊 (2012年3月～「sumai smile」に名称変更)
2001年	「Netオーナーズクラブ きずな」開設
2002年	分譲マンションのオーナー様向け情報誌「gm（ジーエム）」創刊
2006年	賃貸住宅のオーナー様向け情報誌「Maisowner（メゾナー）」創刊
2009年	「きずなガーデンコンテスト」開始
2011年	「節電アクションコンテスト」開催（2011年、2012年の2年間）
2013年	対話型HEMS「あなたを幸せ隊」運用開始

製品責任

## 賃貸住宅「シャームゾン」入居者の満足度向上

CS経営を推進する積水ハウスグループは、入居者向けサービス「MASTクラブ」を運営し、賃貸住宅「シャームゾン」入居者の満足度向上を図り、安定した入居者層の形成を目指しています。

### 入居者向けサービス「MASTクラブ」

積水ハウスは賃貸事業を行うオーナーの皆様への、物件の企画・設計・建築のみならず、積和不動産グループによる賃貸住宅の一括借り上げや管理業務の受託により、経営の安定と資産価値の維持向上に努めています。

CS経営を推進する当社グループは、入居者向けサービス「MASTクラブ」を運営し、賃貸住宅「シャームゾン」入居者の満足度向上を図り、安定した入居者層の形成を目指しています。「MASTクラブ」に入会すると、積和不動産グループが管理運営する賃貸住宅に住んでいるだけで、毎月の家賃1000円につき1ポイントが付与され、たまったポイントは、積和不動産グループでの賃貸住宅への住み替えや不動産の購入・売却、当社での注文住宅建築の際などにご利用いただけます。また、引っ越しや旅行、レンタカーなどの割引サービスが適用されるとともに、賃貸住宅入居者の暮らしと家財を守る「積和入居者保険」や連帯保証人不要で賃貸借契約が結べる「らくらくパートナー」などのメニューも用意しています。



【関連項目】

> [「MASTクラブ」ホームページ](#) 

当社の賃貸住宅「シャーマゾン」に入居されている方々にアンケートを実施しています。調査結果はホームページで公開するとともに、詳細に分析し、新商品の開発や生活ソフトの提案、サービス内容の向上などに活用しています。

### 【関連項目】

---

- > [「シャーマゾン入居者満足度」調査結果](#) 
- > [「シャーマゾン入居率」](#) 



労働慣行

# 労働安全衛生マネジメントシステム

厚生労働省が推奨している「労働安全衛生マネジメントシステム」に、施工現場の特性を加味して独自に構築した「積水ハウス危険ゼロシステム」を組み入れ、危険要因を減らす安全衛生管理活動を展開しています。

## 施工関係者が安全で健康に働ける環境整備を目指して

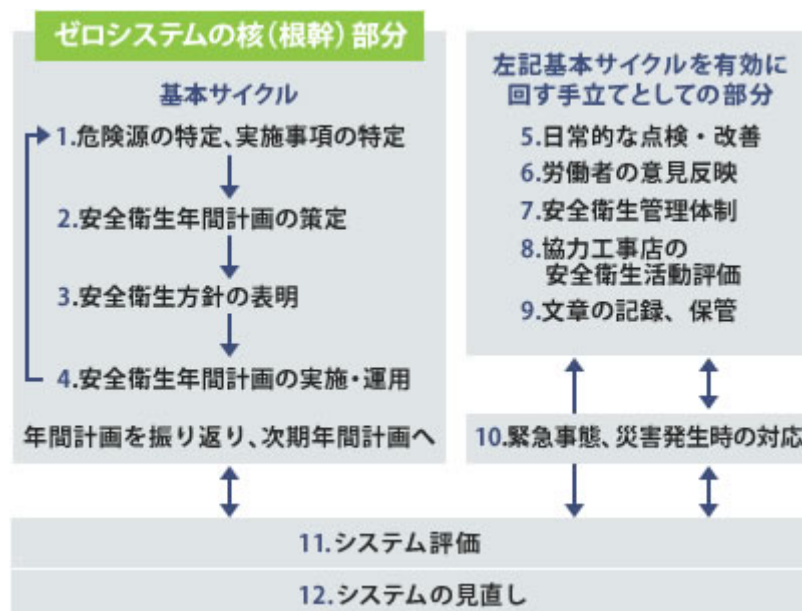
住宅の施工段階では、現場で多くの関係者が業務にかかわります。お客様にご満足いただける高い施工精度を保つためにも、施工関係者が安全で心身ともに健康に働くことができる環境の整備が重要です。積水ハウスでは、従業員のみならず関係会社従業員や協力工事店の職方さんなども含め、グループ一体となった労働安全衛生マネジメントシステムを整備しています。

## 独自に構築した「危険ゼロシステム」を運用

厚生労働省が推奨している「労働安全衛生マネジメントシステム」に、施工現場の特性を加味して独自に構築した「積水ハウス危険ゼロシステム」を組み入れ、危険要因を減らしています。「危険ゼロシステム」では、全社および事業所ごとに毎年作成する「施工安全衛生年間計画」をベースとして、当社や協力工事店の従業員が安全で健康に働けるよう、安全衛生管理活動を展開しています。

今後とも継続して具体的で実効性のある災害防止対策や安全衛生教育研修の実施に努め、関係者が一体となって労働安全衛生水準の一層の向上を目指します。

### 危険ゼロシステムの概要



## 労働災害発生状況

2016年度、部門別の休業災害度数率・業務上疾病度数率は2015年度と比較して増加したもの、減少したものがありました。しっかりと要因分析を行い、安全衛生意識の向上、不安全行動の防止、災害や疾病につながる長時間労働の抑止等に取り組んでいます。

## ■ 休業災害度数率/業務上疾病度数率

(休業1日以上を集計)

部門		休業災害度数率		業務上疾病度数率	
		2015年度	2016年度	2015年度	2016年度
事務部門（従業員 ※1）		0.33	0.16	0.03	0.00
生産部門	従業員 ※1	0.00	0.40	0.00	0.00
	委託業者	0.32	1.22	0.00	0.00
施工部門（委託業者のみ） ※2		3.00	2.57	0.17	0.34

※1 積水ハウス単体

※2 2016年度から、施工現場（委託業者のみ）の延べ労働時間推計に使用する施工床面積当たりの人工数を最新のものに変更しました。最新のものを  
使用した場合の2015年度の施工現場（委託業者のみ）の休業災害度数率は2.42、業務上疾病度数率は0.14です。

休業災害度数率：休業（1日以上）労働災害件数/延べ実労働時間×1,000,000

業務上疾病度数率：休業（1日以上）業務上疾病件数/延べ実労働時間×1,000,000

労働慣行

## 施工現場での労働安全衛生活動

積水ハウスでは、施工従事者が安全で健康に働くことができるよう「全社施工安全衛生年間計画」を作成し、法令遵守はもとより、当社施工現場のリスクに併せ自主的な取り組みや安全教育を、PDCAサイクルに定め、継続的に実施しています。

### 2016年度は「墜転落災害及び重機災害の撲滅」を目指し、外部足場と重機の接触防止を重点対策としました

すべての施工従事者の労働安全衛生の確保は、当社グループの社会的責任であり、重点的に取り組むべき項目の一つと考えています。当社グループでは施工従事者が安全に安心して働くことができるよう、2016年度の「全社施工安全衛生年間計画」で「墜転落災害と重機災害の撲滅」を掲げました。墜転落では、全社を挙げて適正な足場を組むことに注力した結果、外部足場の災害件数は半減したものの、脚立災害は微増しています。「足場組立等特別教育」については、外部機関での講習に加え、当社自前でも実施しています。

### 2016年度 災害発生状況

2016年度の労働災害は工事量の増大と相まって、過去10年で最多となりました。軽症の災害が全体の6割を占め、その最大要因が手順を守らない、面倒なので保護具を使用しない等のヒューマンエラーでした。一方的な指示により不安全行動を即是正するだけでなく、作業者の自発的行動を促す的確な対応が必要であると認識しており、2017年度の課題として取り組みます。

### 2017年度は「重大な災害を起こさない」「災害増加に歯止めをかける」を目指します

ここ数年続く労働災害の増加を阻止するため、2017年度「全社施工安全衛生年間計画」は「重大な災害を起こさない」及び「災害増加に歯止めをかける」に注力していきます。スローガンは「感知即動！ みんなが主役 手順を守って 安全行動ヨシ！」です。

1. 「重大な災害を起こさない」ために

- 1) 重機が起因する災害・事故は作業者だけでなく近隣の人々を巻き込む可能性もあります。当社及び協力工事店は、重機や足場の安全措置を行うのは勿論のこと、見る・聞く・触れる・声掛け等五感を使って「リスクを感知したらすぐ是正行動を起こす努力」を惜しまず、安全行動を実行していきます。
- 2) 夏の建設現場はとてつもない暑さで、誰もが熱中症による脱水症状を大なり小なり経験し、最悪の場合、死に至る可能性もあります。スポーツドリンクや日陰設備、頻繁な小休憩だけでなく、今年は屋外作業者に空調服の着用を推進し、費用の一部補助も行います。



## 2. 「災害増加に歯止めをかける」ために

- 1) 工事関係者に、周囲・通路の確認、整理整頓、手順の遵守等の基本事項の必要性をよく理解し自発的に実行してもらおう環境を整備します。一方的な指示でなく、丁寧に趣旨を説明し、意見をよく聞き、良好なコミュニケーションによって、災害発生を減じます。

### これまでの取り組み

#### ■ 2006年度から、「安全管理者選任時研修」を毎年実施

---

労働安全衛生法に定める安全管理者として必要な実務知識の習得と、安全管理者の資格条件を補完するための新任安全管理者を対象とする研修を社内で毎年定期的に行っています（2016年度は60人が受講）。

#### ■ 2015年から「職長・安全衛生責任者教育」を実施

---

当社では数十年前から協力工事店の職長を対象に法定の「職長教育」を実施していますが、2年前から「職長・安全衛生責任者教育」に移行して実施しています。昔、職長教育を修了した職長には、レベルアップを図る能力向上研修「安全衛生責任者教育編」を受講していただき、「職長・安全衛生責任者教育」修了者となって、現場の安全に努めていただいています。

#### ■ 2016年から「足場組立等特別教育」を実施

---

当社では2015年の労働安全衛生法改正で新たに設定された「足場組立等特別教育」を、2016年から足場を使用する作業者を対象に実施しています。法定の内容にプラスして脚立足場も充実させ、足場の安全レベルの向上を図っています。

労働慣行

## 安全衛生教育研修の実施

工事関係者に対して、災害防止対策や安全衛生教育研修を実施。2016年度の「職長・安全衛生責任者教育」や「足場組立等特別教育」では、法定の内容に積水ハウスの傾向や実施対策を加味して実施しました。「安全衛生大会」等と合わせ、延べ5万7157人が受講しました。

当社は「施工安全衛生年間計画」をもとに、当社グループの従業員だけでなく協力会社の職方など工事関係者に対して、災害防止対策や安全衛生教育研修を実施しています。



### グループ・協力工事店含め、延べ5万7157人が受講

2016年、施工現場の協力工事店の職長を対象に法定の「職長・安全衛生責任者教育」、足場作業者を対象に法定の「足場組立等特別教育」を実施しました。その結果、外部足場の適正設置と相まって、足場からの転落災害が半減しました。また、施工現場で働く協力工事店の職長や職方さんに「安全推進大会」等を開催し、延べ5万7157人が受講しました。年間計画に掲げる具体的実施事項等を公表し、討議発表形式で心に残るよう創意工夫しながら実施しました。また、2012年から夏場の災害多発防止のため、強化月間（「7月は安全の月」と「事業所独自の強化月間の設定」）を計画し、熱中症防止を中心に活動しています。年末年始の災害防止と併せ、期間を定め、メリハリをつけて実践しています。今後も当社グループと協力工事店が一体となって、主体的、創造的に労働環境改善、労働災害発生防止に取り組んでいきます。



( ) 内は2015年度実績

受講人数総計	57,157人	(50,736)
総括安全衛生管理者研修	197人	(195人)
安全管理者選任時研修	60人	(58人)
現場監督研修	233人	(280人)
事業主研修	3,513人	(3,545人)

職長・安全衛生責任者教育	2,258人	(1,464人)
職長能力向上研修（職長・安全衛生責任者編）	4,710人	(3,073人)
足場組立等特別教育	3,802人	(0人)
職種別研修	2,263人	(852人)
安全推進大会	31,252人	(28,971人)
その他	8,869人	(12,298人)

サプライチェーン

サプライチェーン・マネジメント

積水ハウスグループでは、すべてのプロセスにおいてお客様に質の高い製品・サービスを提供することを目標に、企業や組織の壁を超えて、全体最適を図るためのサプライチェーン・マネジメント（供給連鎖管理）を実践しています。

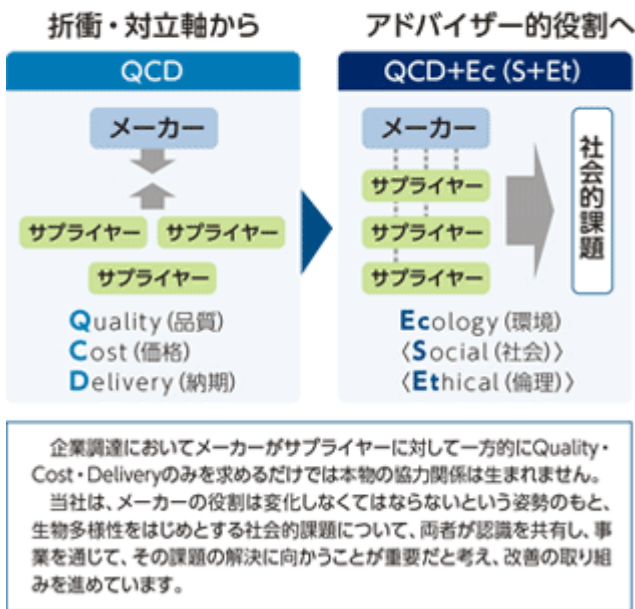
積水ハウスグループの事業は、生産から施工、アフターサービス、リフォームに至るまで、資材調達先や施工協力会社など社外の多くの方々の協力の下に成り立っています。「最高の品質と技術」で「お客様の生命と財産を守る」という使命を果たし、お客様に快適で健康な暮らしを提供するために、積水ハウスグループでは、取引先の皆様とも「運命協同体」として信頼関係をはぐくみ、そのきずなを大切にしています。さらに、企業や組織の壁を超えて、全体最適を図るためのサプライチェーン・マネジメントを実践しています。

資材調達に関しては、主要取引先に向けた「方針説明会」を開催し、資材の「最高品質」「最適価格」「最適な供給」「環境配慮」実現に向けた取り組みを展開しています。

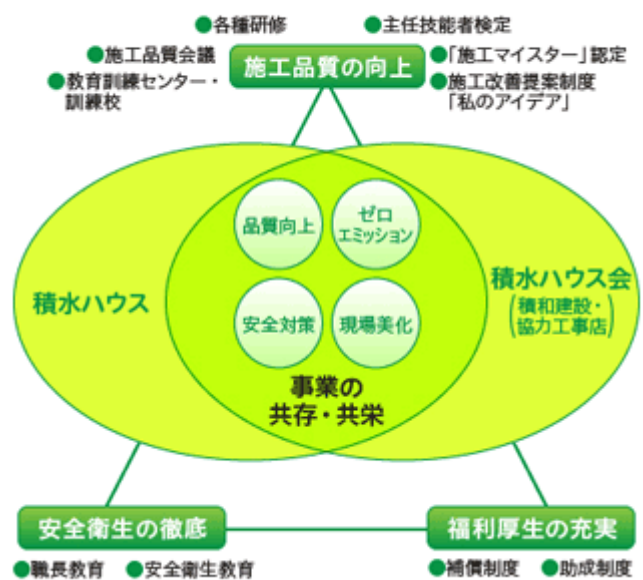
施工に関しては、積水ハウスの各事業所が地域の「積水ハウス会」（積水ハウスの施工に携わるグループ会社および協力工事店によって結成されている任意組織）と連携し、施工品質の向上をはじめ安全衛生の徹底、研修等による人材の育成、各種補償制度・助成制度による福利厚生充実など、さまざまな取り組みを推進しています。

これからも技術・品質向上によるお客様満足向上、コンプライアンス徹底、環境配慮、災害対応と事業継続などの課題に取引先の皆様とともに取り組み、共存共栄を図りながら、持続可能な社会づくりに向けて行動していきます。

資材調達に関して

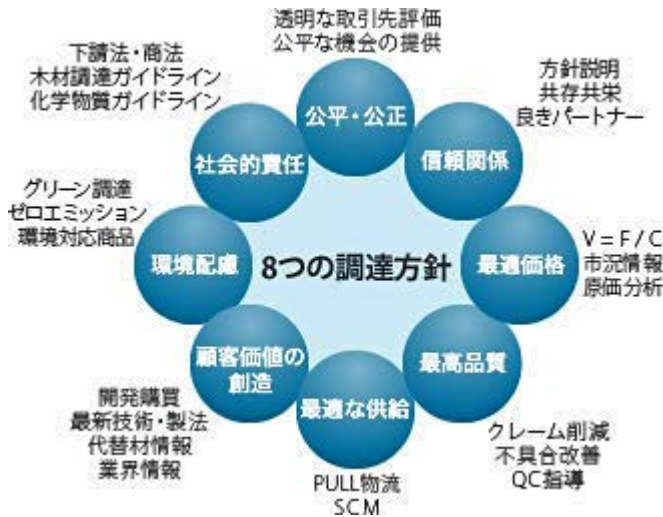


施工に関して



## サプライチェーン 調達方針

積水ハウスグループでは「企業理念」「企業行動指針」に基づく調達活動を遂行するため「最高品質（Q）」「最適価格（C）」「最適な供給（D）」「環境配慮（G）」を中心とした「8つの調達方針」を掲げ、遵守・推進しています。その公平・公正な実践こそが、事業活動の重要なパートナーであるお取引先各社との信頼関係の構築と、円滑で良好な取引関係の実現につながるものと考えています。



### QCD+Gの推進

<p>原材料規格・製品仕様書に基づいて、購買・外注先の品質向上に努めるとともに、公平な評価・指導を実施する</p>	<p>市場実態を十分調査の上、原価分析等の手法を併せて、市場競争原理に基づいて最適価格を追求する</p>
<p>最高品質 <b>Q</b></p>	<p>最適価格 <b>C</b></p>
<p>環境配慮 <b>G</b></p>	<p>最適な供給 <b>D</b></p>
<p>「グリーンファースト」の視点をベースに環境配慮、快適性、経済性を追求する</p>	<p>供給責任を果たし、安定供給に努め、効率的な物流を追求する</p>



### サプライチェーン

# お取引先との相互コミュニケーション

積水ハウスグループでは、お取引先との連携を強化し、相互のレベルアップによる全体最適化を図るため、2016年度も継続して「方針説明会」開催、「事業継続計画」推進、「方針連携強化活動」などの取り組みを実施しました。

## 「方針説明会」の開催

積水ハウスでは、地域分社制を設けず、管理の一貫性やスケールメリットなどに配慮し、原則として本社で一括購買を実施しているため、資材の調達においては本社が「重要事業拠点」に該当し、下記のとおりマネジメント、コミュニケーションを行っています。

なお、全国の各支店における施工労働力の調達は、地元の積和建設および協力工事店から行き、地域経済に貢献しています。

お取引先各社の会社方針と積水ハウスの調達方針との整合性を図り、相互理解を深めるために、主要なお取引先約150社に参加いただき、年1回の「方針説明会」を開催しています。積水ハウスグループの経営概況、中期経営計画、調達方針を説明の上、最新の改善活動の事例を紹介し、お取引先の活動の指針となる情報を発信しています。また、品質・コスト・供給+環境対応等についての評価基準に基づき「取引先評価」を実施した中からベストパートナーを選出し、最優秀会社賞として表彰しました。

併せて「改善事例発表会」を開催。各社の企業体質改善活動などの好事例を発表いただき、お取引先が相互に刺激し合い、気付きを得る場として生かしています。



年1回の「方針説明会」で、積水ハウスグループの経営概況、調達方針などを説明

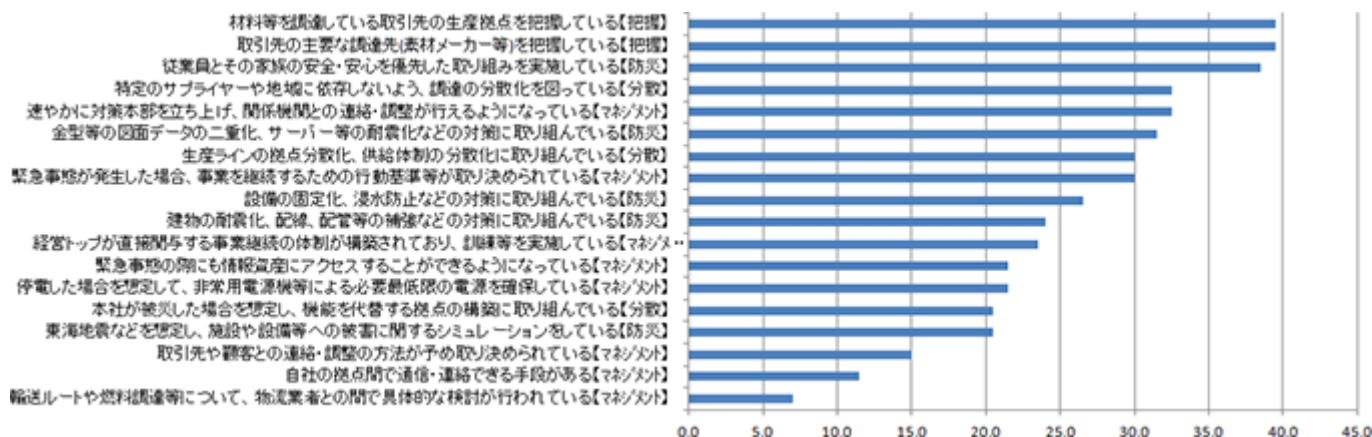


ベストパートナーを選出し、最優秀会社賞として表彰

## BCP（事業継続計画）の推進

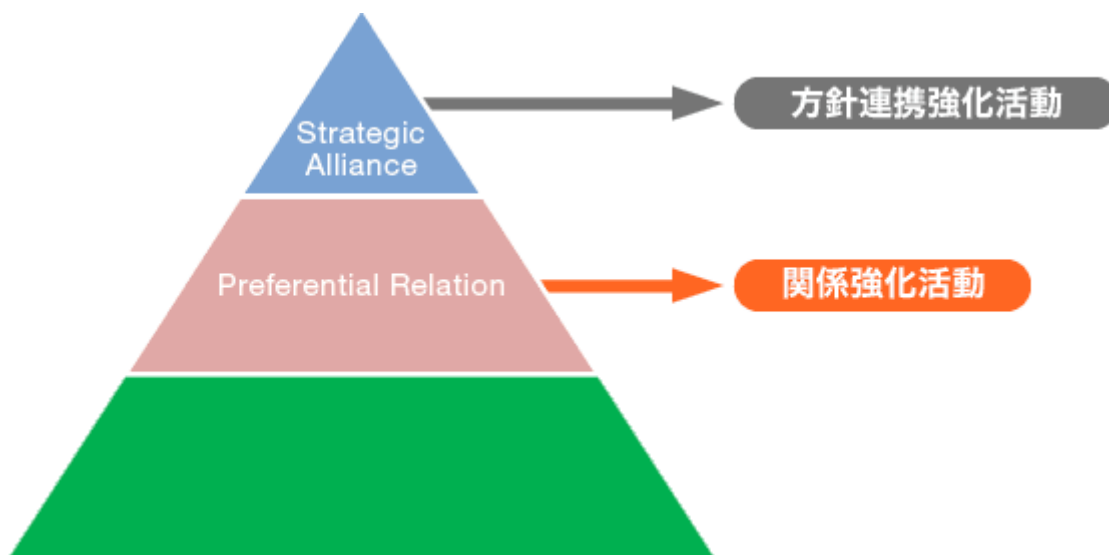
東日本大震災以降も、電力抑制、タイ洪水や尖閣諸島の海外生産リスク、大雪など、事業継続を困難にするさまざまな事象が発生しています。2016年度も前年に引き続き「災害初動体制訓練」を実施しました。訓練を通じて、お取引先各社のBCM（事業継続マネジメント）の現状を確認するとともに、迅速な情報収集および対策の早期立案ができる体制へのステップアップを図っています。

### BCPの改善の必要性を感じている項目（お取引先アンケートから）



### 「方針連携強化活動」「関係強化活動」の推進

お取引先と積水ハウスの方針を共有し、活動のベクトルを合わせるとともに、社内関連部署の連携を円滑化することにより、大きな改革・改善を推進する活動「方針連携強化活動」を展開しています。2014年度からは、対象取引先を拡大し、「関係強化活動」を追加実施しています。



## お取引先の企業体質改善をサポート

企業にとって競争力の源泉は優良な原材料や設備に由来します。積水ハウスにおいては、これらを提供いただくお取引先とともに成長することを重視してマネジメントを行っています。

お取引先各社の品質の向上・クレーム削減・企業体質改善を目的に、主要なお取引先への「工場訪問」と「QC（品質管理体制）診断」を継続的に実施しています。積水ハウスの工場による出向検査も実施しており、お取引先各社の現状に応じた体質改善をサポートしています。

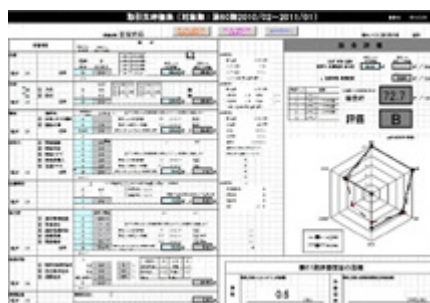
## 「取引先評価」の実施

公平・公正な取引を行うため、1998年から「取引先評価」を実施しています。2009年からは、お取引先の体質改善に役立つように評価結果を開示しています。評価は資材部と開発・生産部門が連携して実施し、定期的に評価項目や基準を見直しています。単なる評価にとどまらず、お取引先におけるPDCAをより実践的なものとし、具体的な改善行動につなげていくことを第一の目的としています。優れた成果を上げたお取引先に対しては、前述の「方針説明会」にて表彰を行っています。

今後もより透明性の高い「取引先評価」の実施とともに、お取引先の体質強化支援と公平・公正な取引を維持継続していきます。

評価に際しては、全件に対して環境クライテリアを考慮した上で、結果のみで一律に選別するのではなく、指導による改善を促すプロセスマネジメントを重視しています。

## 取引先評価表



評価項目に基づき、A～Eの5段階で総合評価。  
バランスチャートを用いて強みと課題を可視化

## 「方針」を推進するための考え方

上記の「方針説明会」「方針連携強化活動・関係強化活動」「取引先評価」「日常活動」の各項目の役割を明確にした上で、PDCAのサイクルを強化し、「方針管理」の考え方に基づいて推進しています。



## 「CSR調達基準」を軸とした展開へ

積水ハウスグループが掲げるCSV経営を実践し、社会から必要とされる企業として持続的成長を図るためには、CSR調達を推進し、その活動をサプライチェーン全体に広げていく取り組みが必要になります。積水ハウスグループのCSRを「調達先と協調した取り組み」へと発展させていくため、「調達方針」として掲げる「社会的責任」「環境配慮」「最適な供給」の内容を「CSR調達基準」として制定し、業務を遂行しています。



### サプライチェーン

# セキスイハウス協力会（福利厚生制度）

「セキスイハウス協力会」は、積水ハウス株式会社を含む全国の施工協力会社が集まって組織されている任意団体です。会員が一体となって福祉、雇用管理、安全衛生、経営の健全性確保、技術・技能の向上などに資する事業を行うことにより、社会的使命の達成に寄与することを目的としています。

1982年に設立された「セキスイハウス協力会」は、施工協力会社における福利厚生の推進、雇用管理の指導や援助を行い、雇用環境の改善と福祉増進を図っています。さまざまな補償制度の管理・運営や、専門知識習得に役立つ情報発信などを行い、施工従事者に安心して仕事に取り組んでいただける環境を提供しています。

また、積水ハウスでは、建築現場に専属的に従事していただく施工協力会社の雇用管理向上のための支援、施工従事者の福祉充実のため、「積水ハウス株式会社助成金制度」を設けています。2016年度の助成金額は、10億2220万7959円でした。

## 「セキスイハウス協力会」が運営管理する諸制度

### 【セキスイハウス建築現場補償制度】

建築現場での災害（事故等）発生時における施工協力会社の経済的損失の軽減を目的とした補償制度。制度加入には「セキスイハウス協力会建築現場補償制度適用申出書」の提出と、拠出金（工事代金の1万分の5（うち10%はセキスイハウス協力会事務費））の負担が必要。

#### ① 業務上災害弔慰見舞金補償制度

施工従事者が業務上災害により死亡・障害等の労働災害を被った場合の法定外補償（国の労災認定が必要）

#### ② 第三者損害賠償補償制度

過失により近隣、施主、通行人等の第三者に損害を与えた場合の損害賠償を補てん

#### ③ 現場盗難事故補償制度

建築現場内で道具、工具等の盗難に遭った場合の損害による費用を補てん（1現場当たり：上限50万円）

#### ④ 現場盗難事故見舞金制度

③の上限額を上回る場合、差額を見舞金として支給（1人当たり：上限15万円）

#### ⑤ 事業主死亡弔慰金制度

拠出金を負担している一次施工協力会社の事業主（70歳未満）が亡くなった時、弔慰金を遺族に支給

#### ⑥ 特別弔慰金制度

施工技能者、施工管理者が積水ハウスの現場にて私傷病（労災認定なし）で亡くなった時、弔慰金を遺族に支給

### 【入院補償制度】

私傷病による休業および入院（手術）費用等の本人負担を軽減するための団体保険制度（施工従事者が任意加入）。

### 【がん保険制度】

がん、またはがんを含む病気での入院（手術）・治療費用等の本人負担を軽減するための団体保険制度（施工従事者が任意加入）。

### 【積立年金制度（拠出型企業年金制度）】

積水ハウスの現場に専属的に従事する方が、老後や退職後の生活基盤をつくるため、自己負担分と施工協力会社奨励金を毎月一定額積み立てる個人年金制度（施工従事者が任意加入）。

### 【主任技能者技能奨励金制度】

積水ハウス独自工法の基礎・外装・内装工事に継続的に携わる専属的現場従事者の技能取得意欲と有資格者の品質向上への尽力に対し、所定基準を定め、奨励金を支給する制度（満70歳まで）。

### 【在職功労金制度】

積水ハウス独自工法の基礎・外装・内装工事に継続的に携わる専属的現場従事者の長年の労への感謝と一層の活躍を期待し、所定基準を定め、功労金を支給する制度（満65歳まで）。

### 【健康診断補助金制度】

一次施工協力会社が健康管理の一環として実施した定期および特殊健康診断において、所定要件を満たした専属的現場従事者の健康診断費用の一部を補助する制度。

### 【積立年金助成金制度】

セキスイハウス協働会積立年金制度を導入した施工協力会社の奨励金の一部を補助する制度。

### 【新人職方訓練校修了助成金制度】

次世代の職方を育成するために、施工協力会社が新人を雇用し、積水ハウス訓練校に派遣して躯体外装・内装施工コースを修了する等の所定要件を満たした場合、施工協力会社に対して費用の一部を助成する制度。

### サプライチェーン

# 施工従事者のマネジメント

積水ハウスの施工に携わる施工従事者のマネジメントは、法令遵守徹底、施工品質向上、CS（お客様満足）向上、安全衛生管理、福利厚生増進などの観点から重要です。2005年から「積水ハウス施工従事者データベース」を構築・運用し、施工従事者情報の収集・管理・利用等の合理化を図っています。

積水ハウス（グループ会社を含む）の施工現場において施工に従事いただく方に関する情報（「施工従事者情報」）を収集して「積水ハウス施工従事者データベース」を構築し、各種法令（労働基準法、建設労働者の雇用の改善等に関する法律、労働安全衛生法、労働保険の保険料の徴収等に関する法律など）の要請に応え、その徹底強化を図るとともに、福利厚生の増進、施工品質およびCSの向上などに役立てています。

「積水ハウス施工従事者データベース」を適切に活用するため「施工従事者情報取扱方針」を定めています。この取扱方針に従って、施工現場で重要な役割を果たしている子会社や本体工事店・広域工事店等の一部の事業者に対し、それぞれの傘下の施工従事者情報を提供し、品質管理や安全管理などを支援しています。これらの事業者を「施工従事者情報管理事業者」といい、当該傘下の施工従事者情報の収集・管理・利用を認めています。

「積水ハウス施工従事者データベース」は積水ハウスの施工部安全指導室長を運用統括責任者とし、各現場での直接の運用は、積水ハウスの各事業所においては総務責任者、施工従事者情報管理事業者においては代表者の責任において、適切な管理の下で行っています。データベースのシステム構築・維持は積水ハウスのIT業務部が担当しています。

## 「積水ハウス施工従事者データベース」の利用目的

### ① 施工従事者の安全衛生管理

- 労働災害への対応
- 現場への入場、退場管理
- 安全衛生教育受講記録の管理

### ② 施工品質管理およびCS向上

- 有資格者と無資格者の区別による合理的な施工制度の実施
- 主任技能者検定受検資格対象者の管理
- 施工体制合理化のための施工従事者状況の把握と分析

### ③ 施工従事者の福利厚生の増進

- 在職功労金対象者（支給含む）の管理
- 主任技能者技能奨励金対象者の管理
- 福利厚生諸制度の加入状況の管理
- 健康診断記録（受診日と受診会場）の管理

④ 施工体制の分析と検証

- 施工現場環境改善のための施工従事者状況の把握と分析
- 年齢構成の把握と高齢化対策の検討

⑤ 各種法令の要請の趣旨に沿った利用

- 労働保険の保険料の徴収等に関する法律に沿った支払賃金方式による労災保険申告のための施工従事者状況の把握

⑥ 上記各目的に付帯する事項



## 社会貢献

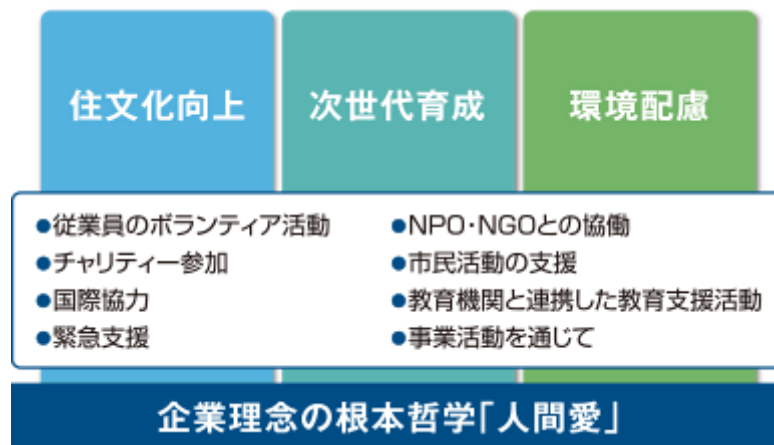
### 社会貢献活動の考え方・指針

本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みづくりや、地域に根差した活動を続けていきます。

「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、自発的活動を促す仕組みをつくり、活動を推進しています

人々の暮らしと地域社会にかかわる事業を営む積水ハウスは、地域と社会の一員として、さまざまな社会貢献活動を進めています。企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みをつくり、地域に根差した活動を続けています。

#### 社会貢献活動の考え方



#### 【関連項目】

- ＜ [各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動](#)
- ＜ [環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施](#)
- ＜ [「弁当の日」応援プロジェクトに参画](#)
- ＜ [「エコ・ファーストの約束」で示した環境テーマが体験できる公開施設「積水ハウス エコ・ファースト パーク」](#)
- ＜ [障がい者の自立と社会参加を応援](#)
- ＜ [「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力](#)
- ＜ [従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」](#)
- ＜ [災害義援金](#)
- ＜ [社会貢献活動社長表彰](#)
- ＜ [芸術文化発信の拠点となる「絹谷幸二 天空美術館」](#)

# 住まいづくりに関する教室を開催

積水ハウスでは、住まいと暮らしに関心のある方々を対象に「すまい塾」を開設し、「こだわり講座」と「公開講座」へ参加いただいています。また、NPO「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」に、総合住宅研究所の一面を提供し、活動を継続支援しています。

## 体験や実例見学ができる「すまい塾」を開催

当社では、住まいと暮らしに関心のある方々を対象に、「すまい塾」を開設しています。

「すまい塾」は1992年、総合住宅研究所にある「納得工房」でスタートしました。納得工房は住まいに関するあらゆる体験を通じて「理想の住まい」を発見できる施設。自分にふさわしい住まいのイメージを、「知る」「分かる」「納得する」というプロセスを通じて組み立てていくことができます。「すまい塾」には「こだわり講座」と「公開講座」の二つがあり、どなたでも受講していただくことができます。

「こだわり講座」では、2～3カ月間同じ参加者が継続的に講座を受講することで、体験学習や実例見学を通じて住まいに関する基礎知識を幅広く身につけるとともに、家族の暮らし方や夢を整理し、こだわりの住まいづくりを見つけていただくことを目的としています。講師は各分野の専門家が担当しています。

「公開講座」は、総合住宅研究所内にある大ホール等で広く参加者を募り、開講している市民講座。住まいと暮らしにかかわりのある多彩なテーマを取り上げ、「その道のプロ」である講師を社内外から招き、講演形式で実施しています。また、過去の講義録はホームページからご覧いただくこともできます。

2017年1月までに、「こだわり講座」には858人、「公開講座」には1万7315人の方が参加しています。



当社社員による「こだわり講座」の様子

### 【関連項目】

- > [「すまい塾」ホームページ（受講をお申し込みいただくことができます）](#)
- > [「すまい塾 こだわり講座」ホームページ](#)
- > [「すまい塾 公開講座」ホームページ](#)
- > [「すまい塾 過去の公開講座・誌上公開講座」ホームページ（講義録）をご覧いただくことができます](#)

## インターネットによる「Webすまい塾」の全国展開

納得工房のホームページで受講できるWeb版「すまい塾」は、好きな時に、繰り返し、自分のペースで学んでいただくことができるインターネットを活用した家庭学習タイプのコンテンツサイトです。2016年度は21件のお申し込みをいただき、開設（2008年4月）から2017年1月までの累計申し込み数が2926件となりました。「Webすまい塾」は、住まいづくりの楽しさを多くの皆様に知っていただくことを目指して、全6レッスンと3つのスペシャルレッスンから構成される充実したカリキュラムで、登録・受講料は無料です。

### 【関連項目】

> [「Webすまい塾 修了生インタビュー」 ホームページ](#) 

## 西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫

建築学者で日本の住宅学を切り拓いた京都大学名誉教授、故西山 卯三氏が、生涯にわたって収集・創作した研究資料約10万点を整理・保管するNPO法人「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」（京都府木津川市、以下「西山文庫」）。多くの優れた研究者の貴重な資料も、その引退や死去によって散逸、消滅することが多い中で、日本でも稀有な事例であるため、当社は総合住宅研究所の一面を提供し、西山文庫設立当初から活動を支援しています。

西山氏は学者としての多くの論文、著書、学術資料だけでなく、自らの足で全国津々浦々、あらゆる階層の人々の住まいと暮らしを取材して、膨大な資料を収集し、自筆のスケッチや写真も残してこられました。その多くは今となっては入手することができない一級資料や原資料となっており、海外を含むさまざまな人々に活用されています。また、住宅・まちづくり関連の学位論文を幅広く収集しています(2013年度までに刊行された学位論文418冊)。

こうした社会的に貴重な文化的財産である西山氏による研究・創作資料を後世に残し、その精神を受け継ぎ次代の研究者などに提供し育てるということが「西山文庫」の使命であり、毎年さまざまな成果を上げています。その他、西山文庫では次のような活動をしています。



積水ハウス総合住宅研究所内に設置  
「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」

## ■ 文庫資料を活用した出版活動

文庫が保管・管理している資料を広く社会で活用してもらうために、文庫がかかわって編集・発行している出版物としては下記のものがあります。それらは、西山氏の遺稿、西山氏の多面的な業績の学術的解析・評価、所蔵資料の復刻、西山氏が記録した写真資料、などです。最近では、2015年度発行の「軍艦島の生活<1952/1970>住宅学者西山卯三の端島住宅調査レポート」創元社は、世界遺産指定を期に多くの軍艦島本が出る中でも、特に好評を得ています。

- 安治川物語－鉄工職人卯之助と明治の大阪：西山 卯三著、日本経済評論社、1997年
- 西山卯三とその時代－西山文庫資料解題：非市販本、2000年
- 住宅営団：戦時・戦後復興期住宅政策資料第1巻～第6巻：日本経済評論社、2000－2001年
- 幻の住宅営団・戦時・戦後復興期住宅政策資料目録・解題集：日本経済評論社、2001年
- 西山卯三の住宅・都市論：日本経済評論社、2007年
- 昭和の日本のすまい－西山卯三写真アーカイブスから：創元社、2007年
- これからのすまい－住様式の話（復刻版）：相模書房、2011年
- 軍艦島の生活<1952/1970>住宅学者西山卯三の端島住宅調査レポート：創元社、2015年

## ■ 所蔵資料の公開・提供

大学や研究所、市民などさまざまな分野の方、また海外からも所蔵資料の閲覧・提供、調査研究資料としての活用などの依頼があり、幅広く提供しています。2016年度には、「西山卯三がみた戦後の炭鉱－日本を代表する住宅学者による炭鉱と「住まい方」の記録－」（NPO法人炭鉱(ヤマ)）の記憶推進事業団主催、岩見沢市の展示と講演会開催に協力しました。西山氏がほぼ毎日つけていた約400冊の日記・日録を読み解く調査研究が、大学研究者と協力して始まりました。また、LIXILギャラリー(大阪、東京)による展示会「西山卯三のすまい採集帖(仮)」開催(2017年6～8月大阪、同9～11月東京)とBOOKLET発行に協力しています。読売新聞(2016年11月17日夕刊)に掲載された「ユメと熱情のころ 20世紀 File.063 食寝分離論」の取材・資料提供に協力しました。

なお、所蔵資料を検索できるデータベースをホームページ上に設けています。

## ■ ニュースレターの発行

会員と文庫活動を結ぶため毎年3回、定期的にニュースレターを発行しています。

## ■ 夏の学校の開催

毎年夏に開催しています。全国の大学生・院生を対象としたフィールドワーク、ワークショップ等によるサマースクールです。2016年度は中国・桂林市で、桂林理工大学と名城大学(名古屋市)の協力で開催しました。世界遺産でもある桂林の自然景観を楽しむだけでなく、1000年以上続く歴史的集落の保存修景やニュータウン開発などを見学し、桂林理工大学の学生とのワークショップも行いました。

## ■ 人と住まいと社会を考える研究部会の開催

積水ハウス総合住宅研究所と西山文庫のメンバーによる共同研究会を2004年度から開催してきました。これまでは、「人口減少時代の諸相」、「21世紀における居住者のライフスタイル動向と住宅・住宅地の行方」、「変わる家族・変わらぬ家族／変わる住まい・変わらぬ住まい」、「人口減少時代を豊かにする住まいとまちの新しいマネジメント研究」といったテーマで研究を進めてきました。2016年度からは、これまでの12年間の活動蓄積を踏まえ、研究活動の諸成果をさらに社会に還元していくこととしました。そこで、積水ハウス・西山文庫メンバーによる定期的な研究部会活動を継続する一方で、若手研究者に向けた出版助成事業へと比重を移します。具体的には、西山氏の目指した「人」と「住まい」の調和を謳った「人と住まい文庫」シリーズとして、年間2冊の印刷・発行を目指しています。

## ■ すまい・まちづくりフォーラム関西21の開催

詳しくは下欄に。

## 市民参加型フォーラム「すまい・まちづくりフォーラム関西21」に協力

2002年から開催している一般公開の「すまい・まちづくりフォーラム関西21」への協賛も「西山文庫」への支援の一つです。2016年度までに37回、本社のある梅田スカイビルや総合住宅研究所などで開催しています。「すまい・まちづくりフォーラム関西21」の開催趣旨は住環境にかかわる今日的な話題や歴史・文化的意味などについて検証し、21世紀の住まい・まちへ持続的発展につながる多彩な情報を発信して住文化の発展に貢献することです。

安全・安心なまちづくり、まちの再生、持続可能なまちづくりの実現などをテーマに、市民参加型のフォーラムは、毎回その分野のトップランナー諸氏による講演ということもあって、講演後の意見交流では講師と参加者の間で活発な討論となり、住まい・まちづくり文化の向上に一石を投じてきました。講演者にとっても西山文庫のフォーラムで話すことは知的刺激に富んだ機会と評価されています。

2016年度には春と秋にフォーラムを開催しました。

### ◆春のフォーラム：「蒸暑地域“沖縄”に学ぶ住まいづくり」

一南の島から学ぶ高断熱高気密住宅の行方

講師： 伊志嶺 敏子氏（伊志嶺敏子一級建築士事務所 代表）

共同主催： NPO 法人 西山卯三記念すまい・まちづくり文庫

（公社）日本建築家協会近畿支部

（公社）都市住宅学会関西支部

後援： （公社）大阪府建築士会、（一社）大阪府建築士事務所協会、（一社）日本建築協会、

（一社）日本建築学会 近畿支部 住宅部会

協賛： 積水ハウス、積水ハウス梅田オペレーション

会場： 梅田スカイビル・タワーウエスト22階

開催日： 2016年6月11日



講師：伊志嶺 敏子氏



講演の様子

◆秋のフォーラム：「大阪長屋・リノベーションと耐震化の可能性」

「大阪長屋の再生 ～オープンナガヤ大阪で広がるネットワーク」

藤田 忍氏（大阪市立大学生活科学研究科教授）

「長屋を耐震化する方法」

柘田 洋子氏（建築構造設計事務所 桃李舎 主宰）

協賛： 積水ハウス・積水ハウス梅田オペレーション

会場： 梅田スカイビル・タワーウエスト22階

開催日：2016年11月15日



講演の様子



講師：藤田 忍氏



講師：柘田 洋子氏

## 各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動

「住まいづくり」や「庭づくり」という積水ハウスの本業を生かし、小学生から大学生まで幅広い層の教育機関と連携して、自然体験学習をはじめとする環境にかかわる学習や、設計インテリアに関する講義や実習の受け入れなど、さまざまな“学びの場”を提供しています。

### 総合住宅研究所での教育貢献活動

当社総合住宅研究所（京都府木津川市）内にある「納得工房」は、人間性豊かな住まいと住環境をつくるため、生活者と共に体験・検証する「生活体験学習基地」として1990年に開設し、来館者の累計は88万人を超えました。その半数以上は、住まいづくりを体験的に学ぶために来館される方々ですが、五感をフルに使って学べる「納得工房」の大きな特長を生かして、さまざまな教育体験の場としても貢献しています。

教育体験を受け入れる総合住宅研究所では、職場体験や総合学習、あるいは専門知識の習得など教育機関のさまざまな要望に応えるプログラムを用意しています。小学生から大学生まで幅広い層を対象とし、建築だけではなく生活や福祉関連の学習施設としても活用されています。

学習プログラムの一つ「住まい体験学習」は、建築・生活科学・デザイン系の大学生を対象とし、学校種別による推奨コースを設定したもので、納得工房スタッフが講師を務めています。近年、特に受講者の関心が高いのが、生涯住宅ゾーンの「GARO※体験」です。拘束器具や車いすなどを使用して、障がいや老化などの身体状態を疑似体験できるため、福祉や医療を学ぶ学生が増加し、研究や調査にも有効に活用いただいています。

※ GARO：「G：ガリバー…寸法変化」「A：（不思議の国の）アリス…環境変化」「RO：ロボット…身体拘束」を組み合わせた言葉。「我老（がろう）＝我れ老いる」の意味も兼ねています。一般老化、妊婦、リウマチなどの状態を、拘束器具を使って体験（GARO体験）することで、健康なときには感じられない住まいの問題点を実感できます。



GARO体験の様子



建物の構造についても学びます

## 体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」

地震や火事などの疑似体験を通して、納得のいく住まいづくりを考えていただける体験型施設「住まいの夢工場」を全国5カ所に設置し、学生の体験学習を受け入れています。

「住まいの夢工場」では、防災・防犯など、住まいの安全と安心、ユニバーサルデザイン、快適な暮らしと環境、エネルギーなどのテーマを掲げ、楽しみながら体験学習ができるよう、さまざまな工夫をしています。小・中学生をはじめ、学生たちが「住生活」について学ぶ体験学習の場としても活用されています。そして、当社が提供する体験学習プログラムの一つに、震度7クラスの揺れを再現する地震体験があります。この体験を子どもたちが家族に話すことで、各家庭の防災意識が向上するなどの波及効果もあります。

「住まいの夢工場」での体験が、将来的に災害に強い住まいやまちづくりにつながることを願い、今後も多くの学生たちの体験学習の場として活用していただきたいと考えています。



1	東北 住まいの夢工場	宮城県加美郡色麻町大原8番地
2	関東 住まいの夢工場	茨城県古河市北利根2
3	静岡 住まいの夢工場	静岡県掛川市中1100
4	関西 住まいの夢工場	京都府木津川市兜台6-6-4
5	山口 住まいの夢工場	山口県山口市鑄銭司5000

### 【関連項目】

> [「住まいの夢工場」ホームページ](#) 



## 新梅田シティ「新・里山」での教育貢献

2006年7月に本社がある新梅田シティ（大阪市北区）の公開空地内に、「5本の樹」計画の考え方を採り入れつくられた約8000m<sup>2</sup>からなる「新・里山」では、2007年より毎年、近隣の幼稚園、小学校と連携し体験学習を実施しています。2016年度は地元の小学生らが、田植えや除草作業、稲刈り、足踏み式脱穀機や唐箕（とうみ）を使った脱穀作業、餅つきなど機械を使わない昔ながらのモチ米づくりを体験。また、幼稚園児らはサツマイモの植え付けとイモ掘り、自然観察会を体験しました。さまざまな農作業体験を通して食とものづくり、自然共生の大切さを学ぶ場として活用されています。

また、オフィスワーカーによるボランティア活動も活発に行われています。新梅田シティで働くオフィスワーカーによるボランティア組織「新梅田シティ里山くらぶ」では、年間を通じて勤務前に活動する「朝活」や、昼休み時間内に活動する「昼活」に加え、かかし作りや田んぼで収穫したモチ米を使った餅つきなども活動の一部に採り入れています。



中大淀幼稚園児による  
サツマイモ苗の植付



大淀小学校5年生による  
田植え



足踏み式脱穀機や唐箕（とうみ）を使った  
脱穀作業



新梅田シティ里山くらぶによるボランティア活動  
左：田植え、中央：かかしづくり、右：餅つき



## 「希望の壁」親子イベントを開催

「新・里山」と同様に、新梅田シティ内にある「希望の壁」でも地元の方々、子どもたちに愛着を持ってもらうことを目的に、年間を通じてさまざまなイベントを実施しています。この「希望の壁」を世界最大のバタフライ・ウォールにしようという思いを込め、子どもたちの手によって、蝶が卵を産める柑橘系植物やキャベツ苗を「新・里山」に植え、蝶が蜜を吸えるよう花苗を「希望の壁」に植樹しています。



「新・里山」でキャベツ苗の植樹




「希望の壁」へ花苗の植樹



「新・里山」で採取したハーブを使って、石絵づくり



### 【関連項目】

- > [「新・里山」と「希望の壁」](#)
- > [新梅田シティ「新・里山」ホームページ](#) 

社会貢献 | 住文化向上

# オーナー様に呼びかけて「きずなガーデンコンテスト」を実施

「きずなガーデンコンテスト」を、戸建住宅のオーナー様とのコミュニケーションの一環として2009年から毎年開催しています。

オーナー様の「いつもいまが快適」な暮らしをサポートする情報誌「きずな」と「Netオーナーズクラブ」でコンテストへの参加を呼びかけ、オーナー様の自慢の庭（花の庭、家庭菜園や生き物の来る庭など）やさまざまな「ガーデンライフ」をご応募いただいています。

そのご自慢の庭を、当社の関係部署の担当者と社外の専門家が審査するコンテストです。審査のポイントは、デザイン面や機能面に優れていることに加え、「いかにオーナー様が庭を楽しまれているか」が重要です。

本コンテストを通じ、オーナー様から得られるノウハウや課題なども社内で共有し、庭づくりの企画に役立て、オーナー様の満足度アップにも役立てています。コンテストにはアイデア部門・ガーデンライフ部門・5本の樹部門・花の庭部門の四つの部門があり、それぞれの部門賞を審査した後、その中から最優秀賞を決定しています。

最優秀賞を受賞されたオーナー様の元には訪問取材し、「きずな」冊子や「Netオーナーズクラブ」に掲載。積水ハウスのモニターガーデンとして社内外へ情報を発信しています。

2016年の当コンテストでは全国から四つの部門合わせて92件の応募がありました。ここ数年は毎年応募が増えており、オーナー様の「ガーデン」への関心の高さがうかがえます。

このコンテストは、全国各地から寄せられた素晴らしい庭園の写真を審査し、最優秀賞を決めます。また、最優秀賞を受賞されたオーナー様のお宅を訪問し、その庭園を詳しく紹介します。

第8回「きずなガーデンコンテスト」結果発表と最優秀賞のお宅訪問。

数々の応募作品から審査と入賞が決まり、最優秀賞に選ばれた成島勇樹さんのご自宅へ、今回から新たに内閣審議員になったガーデンデザイナーの加藤一雄先生がお宅訪問されました。

最優秀賞 成島 勇樹さん

「庭も暮らしの一部」として、日々の暮らしを豊かにする。庭園のデザインは、生活の質を高める重要な要素です。このコンテストを通じて、多くのオーナー様から素晴らしい庭園のアイデアや工夫が寄せられました。また、最優秀賞を受賞されたオーナー様のお宅を訪問し、その庭園の魅力を詳しく紹介します。

「庭も暮らしの一部」として、日々の暮らしを豊かにする。庭園のデザインは、生活の質を高める重要な要素です。このコンテストを通じて、多くのオーナー様から素晴らしい庭園のアイデアや工夫が寄せられました。また、最優秀賞を受賞されたオーナー様のお宅を訪問し、その庭園の魅力を詳しく紹介します。

### 社会貢献 | 次世代育成

## 環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施

地球温暖化防止や環境保全を推進するためには、次世代を担う子どもたちへの啓発活動も大切です。そこで、積水ハウスは「エコ・ファースト企業」の三つの約束の取り組みをテーマとして、体験型学習プログラムを実施しています。また、教育機関と連携して、職場体験の受け入れや出張授業を実施しています。

### 地球温暖化と暮らしのかかわりを学ぶ キャプテンアースの「いえコロジー」セミナー

実験や予想などの「体験」と「ゲーム性」を取り入れながら、地球温暖化と暮らしのかかわりを学び、「住宅」という暮らしの中にある身近な題材をもとに「エコな暮らし方」の理解と、「子どもたち自らのアクション」を促します。子どもたちの主体性を重視し、「気付き」や「発見」の楽しさから「理科離れ」を解消していくプログラムです。社員自らが「地球防衛軍からやって来た“キャプテンアース”」という名のキャラクターに扮し、授業の講師役を務めます。2015年には、第9回キッズデザイン賞（子どもの未来デザイン 学び・理解力部門）（主催：NPO法人 キッズデザイン協議会）を受賞しました。



### 45分コースの例 <暮らしの省エネ・断熱性能について>

#### ■講義（10分）

##### 概要、趣旨説明

パワーポイントを投影、子どもたちに質問を投げかけながら、身近な例を挙げ「エコ」と「エコじゃない」について考える。

#### ■実験（25分）

##### 断熱性能の実験①（10分）

放射温度計の使い方を説明。

ポットのお湯と表面温度を測り、「断熱性能」について考える。

##### 断熱性能の実験②（15分）

住宅に使われている部材とドライアイスを使い、温度変化を追求しながら熱伝導について学ぶ。

## ■まとめ（10分）

- 赤外線サーモグラフィカメラを使って、部材の熱の伝わり方を確認。
- 暮らしの中で「断熱性能」を生かした例を紹介。
- 実験②で使用した部材は住宅のどこの部分で使われているかを説明。断熱性能が優れた部材を利用する事で「エコ」な暮らしができることを理解する。
- キャプテンアースとの約束  
今日から「エコ」な暮らしをするため、自分に何ができるのか、キャプテンアースに約束（発表）する。



## お問い合わせ先


コーポレート・コミュニケーション部CSR室

TEL : 06-6440-3440 E-mail : [csr@sekisuihouse.co.jp](mailto:csr@sekisuihouse.co.jp)

## 生態系や在来種・外来種問題を考える 「Dr.フォレストからの手紙」

校庭などの身近な自然をテーマに、緑の専門家（Dr.フォレスト）から出されたミッションをクリアする中で、生態系や在来種・外来種問題を考え、そこで得た新しい知識や視点・考え方をこれからの行動につなげることを目的としたプログラムです。2007年には、第2回キッズデザイン賞（コミュニケーションデザイン部門）（主催：NPO法人 キッズデザイン協議会）を受賞しています。教師が自由にアレンジすることのできる教材提供（教材データ一式のダウンロード）と緑の専門家（Dr.フォレスト）が学校にやってくる出張授業（講師派遣）の2種類を用意しています。また、本プログラムをベースにした教員研修（教育委員会、教科研究会などで主催する研修会への講師派遣）も実施しています。



	教材提供	出張授業	教員研修
	“体験思考型”環境教育プログラムを無償でダウンロードできます。	緑の専門家が“体験思考型”環境教育の出張授業を無償で実施いたします。	教師を対象に、授業プログラムを体験する研修を無償で実施いたします。
内容	授業プログラム教材一式提供	出張授業プログラム・講師派遣	授業プログラム教材一式提供
対象	小学校4～6年生 (クラス単位での実施) ※ 教材のアレンジにより中学校での実施も可能	小学校4～6年生 (クラス単位または合同での実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教育委員会・研修センターなどで研修の企画または講師を担当される方</li> <li>■ 各教育委員会が取りまとめる現役の教員</li> </ul>
詳細	<a href="#">“Dr.フォレスト”からの手紙</a> 		

## お問い合わせ先

環境推進部

TEL：06-6440-3047

## 資源そのものやゴミ分別の大切さを学ぶ 「リサイクラー長官に学ぶトレジャーハントツアー」（施設見学版）

2015年5月にオープンした「エコ・ファースト パーク」において、資源循環について学ぶプログラムを実施しています。ゴミの不法投棄問題等について理解を深めた後、住宅建築で出たゴミを直接触り、それがどのようなものにリサイクルされるのかを学び、資源そのものやゴミの分別の大切さを学びます。現場で回収した廃棄物を分別する「資源の泉」を実際に見学して、たたみや壁紙等の解体の体験もプログラムに盛り込んでいます。



## お問い合わせ先

関東工場 総務部

TEL：0280-92-1531（施設場所：茨城県古河市）

### 【関連項目】

> [「エコ・ファースト パーク」](#) 

## 「住空間ecoデザインコンペティション」 「建築新人戦」を開催

学生と共に住空間デザインを考える産学協働のプロジェクト「住空間ecoデザインコンペティション」や所属する教育機関で取り組んだ設計課題作品を対象に実施するコンテスト「建築新人戦」の開催に積極的に協力し、建築を志す学生を応援しています。

### Real Size Thinking 2016 住空間ecoデザインコンペティション

「Real Size Thinking 2016 住空間ecoデザインコンペティション」は、全国の建築・デザイン系の大学生・大学院生を対象に開催している産学共同コンペです。関西・関東の2ブロックに分かれ、東京大学、神戸大学をはじめとする幹事の先生8人と協賛企業3社（大阪ガス株式会社、クリナップ株式会社、積水ハウス）からなる運営委員会形式で実施し、当社が事務局を務めています。今年は全国28大学から150作品の応募がありました。

本コンペは、公募から最終審査まで半年以上かけて行う大規模なイベントで、期間中にはコメントセッション（エスキスをもとに審査関係者と対話し、アドバイスを受ける機会）を設けています。また、二次審査は本コンペの最大の特徴であるワークショップ形式で行われ、公開プレゼンテーション審査や懇親会では学生同士の交流も図られます。

二次審査を通過した優秀4作品（関西2作品、関東2作品）には原寸大モデルの制作権が与えられ、完成した原寸大モデルは、2016年11月12日～20日、大阪の本町ガーデンシティ1階で公開されました。

本コンペは、2005年に大阪芸術大学と当社のコラボレーションでスタートし、2007年から「原寸大モデル制作」を導入。2009年からは関西だけでなく、関東エリアでもコンペを開始し、若いデザイナーたちの力で、未来社会に向けての新しい作品が多数生まれることを期待しながら、規模を拡大・発展させてきました。2016年度は原寸大モデル制作10年という節目にあたり、これまで一定の成果があったことに鑑み、今回をもってコンペを終結させることになりました。最終年度を飾るにふさわしく、念願であった関東・関西の原寸大モデルを一堂に展示し、11月12日には東西合同の最終審査（公開プレゼンテーション審査）を実施。最優秀賞および優秀賞が選定されました。

### 最優秀作品



<最優秀賞> 「Fluffy Scape」  
神戸大学大学院 / 橋本阿季さん、森下孝平さん



<優秀賞> 「Tokyo In(Di)visible」  
東京大学大学院/Hadin Charbelさん、Deborah Lopezさん

## 建築新人戦

所属する教育機関（大学・短期大学・専門学校・高等専門学校）で取り組んだ設計課題作品を対象に実施するコンテスト「建築新人戦」に当社は2010年から特別協賛しています。9月、一次審査を突破した100作品が梅田スカイビル内の展示会場に展示され、二次審査（公開審査会）を開催し、最優秀新人を決定。上位入賞者はアジア建築新人戦への日本代表として、同世代のアジア各国の学生たちとも競い合いました。この梅田スカイビルを舞台とした「建築新人戦」が、建築を志す若者たちにとって自らの構想や技量そして自身の所属する教育環境を問い直す場として、さらには若きデザイナーの登龍門として、定着するよう今後も応援していきます。





100作品の展示



公開審査会

### 【関連項目】

- > [「住空間ecoデザインコンペティション」ホームページ](#)  
[テーマ、審査委員、スケジュール、過去の受賞作品などをご覧くださいませ](#) 
- > [「建築新人戦」ホームページ](#) 



## 「弁当の日」 応援プロジェクトに参画

弁当づくりを通じて、子どもの生きる力、感謝の心を育む「弁当の日」の取り組み趣旨に賛同した企業が連携して、その普及展開を応援する「弁当の日」応援プロジェクトが2012年に発足し、積水ハウスも参画しています。

### 「弁当の日」は、子どもの感性、成長をはぐくみます

「弁当の日」の取り組みは、献立づくりから、買い出し、調理、弁当詰めから片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身で行います。弁当づくりを通じて、「食の大切さ」「作る楽しみ」「作ってもらう感謝の気持ち」を創出し、子どもの感性、成長をはぐくみます。元小学校校長の竹下和男氏が提唱した「弁当の日」の取り組みは、既に1800校以上の小中学校で実施されています。この取り組みを普及啓発する「弁当の日」応援プロジェクトに、当社も応援企業として参画しています。



取り組み成果が認められ、2014年8月、「第8回キッズデザイン賞」で消費者担当大臣賞（優秀賞）を受賞しました。

### 「お弁当づくり」から学ぶ食育「弁当の日」イベントを開催

当社では、2012年より、「『お弁当づくり』から学ぶ食育 ～食べ物大切さ、つくる楽しみ、感謝の気持ちを育む「弁当の日」～」を開催しています。

親子で参加していただき、子どもたちは弁当づくりにチャレンジする一方、別会場では「弁当の日」の提唱者である竹下和男氏による講演会「『弁当の日』が生み出す『くらしの時間』」を同時開催。竹下氏は、料理をせずに成長した大学生の食事を例に挙げ、食生活の乱れに警鐘を鳴らすとともに「人は置かれた環境に適応して生きていくので、子どものころから料理にかかわることで、自分で食べる物を自分で管理できる能力が身につく、友達を驚かせたい、家族を喜ばせたいという気持ちが、つくる楽しさと同時に思いやりや感謝の心をはぐくんでいく」と語りました。

講演会の参加者からは「子育てで悩んでいる中、とても心に響く講演だった」「子どもに生きていく力、生活する力を伝えていくことが子育てなんだと再認識した」「単なる弁当の話かと思っていたが、生きること、命を受け継ぐことを教えてもらった」、子どもたちからは「いつもお母さんにつくってもらっているお弁当を自分でつくってみたら意外に難しかった」「ひとりで料理をしたことがなかったからドキドキしたけど、上手にできてうれしかった」「家でもお父さんと弟にお弁当をつくってあげたい。お母さんがしんどい時には、ごはんをつくってあげたい」などの感想が寄せられました。



竹下和男氏による講演会「『弁当の日』が生み出す『くらしの時間』」





子どもたちによるお弁当づくり



つくった弁当を親子で試食

#### 【関連項目】

- > [「弁当の日」イベントの竹下和男氏のご講演録をご覧ください](#) 
- > [「弁当の日」ホームページ](#) 

社会貢献 | 次世代育成

## 「エコ・ファーストの約束」で示した環境テーマが体験できる 公開施設「積水ハウス エコ・ファースト パーク」

「エコ・ファーストの約束」で示した環境テーマ「温暖化防止」「生態系保全」「資源循環」への取り組みが体験できる公開施設「積水ハウス エコ・ファースト パーク」を運営。次の世代と共に住まいと環境を学ぶ場を広く提供しています。

当社が取り組み続けてきた、環境活動の歴史の中での象徴的なモデル施設群を関東工場（茨城県古河市）に集め、「エコ・ファーストの約束」で示した三つの環境テーマ（「温暖化防止」「生態系保全」「資源循環」）への取り組みが体験できる施設として、「積水ハウス エコ・ファースト パーク」を運営、広く一般に公開しています（公開開始2015年5月）。

本施設では、快適な暮らしのためには環境配慮設計や技術が不可欠であり、エネルギーをなるべく使わない、生態系を壊さない、廃棄物を出さないといった地球環境を守るために住まいが果たす役割が多くあることを体感しながら楽しく学ぶことができます。このため、広く一般の方々に当社の環境技術の先進性をアピールするだけでなく、小学生の親子向けに環境教育プログラムを実施したり、大学生や高校生に住まいと環境の関係を理解する教材として利用していただいています。今後も継続発展できる施設を目指して、積極的に活用・アピールしていきます。



「積水ハウス エコ・ファースト パーク」全景



「資源の泉」内、「森の教室」の様子



エコ・ファースト推進協議会の情報交換会で見学



量の解体作業を体験中





アフリカ各国から来日された留学生も見学

## 年間来場者数

期間	来場者数	うち、 学生・生徒	高校生・大学生の見学実績 (先生と学生・生徒による来場)
2015年5月19日 (オープン)～ 2016年1月31日	3,428人	349人	<p>【大学・高専(50音順)】            宇都宮大学、小山高専、近畿大学、慶應義塾大学、駒沢女子大学、シドニー工科大学、芝浦工業大学、首都大学東京、筑波大学、東京大学、東京家政学院大学、東洋大学、日本大学、日本女子大学、一橋大学、文星芸術大学、明治大学、山形大学</p> <p>【専門学校】            中央工科デザイン専門学校</p> <p>【高校】            (茨城県) 県立勝田工業高校、県立つくば工科高校            (栃木県) 県立宇都宮工業高校、県立栃木高校            (埼玉県) 県立熊谷高校</p> <p>※ 地元小中学校にも環境に関する課外授業先として利用していただいています。</p>
2016年2月1日～ 2017年1月31日	4,141人	1,451人	

### 【関連項目】

- > [「積水ハウス エコ・ファースト パーク」のホームページ](#) 
- > [「積水ハウス エコ・ファースト パーク」のブログ](#) 

### 社会貢献 | 次世代育成

## キッズデザイン協議会

積水ハウスは、次世代を担う子どもたちの健やかな成長・発展につながる社会環境の創出を目的とした「キッズデザイン協議会」の発足当初から、協力、支援を行うとともに、会長には当社会長兼CEOの和田 勇が就任しています。2017年1月現在の会員数は108団体に達しています。

2006年5月、次世代を担う子どもたちの健やかな成長・発展につながる社会環境の創出に寄与することを目的として「キッズデザイン協議会」が発足しました。2007年4月には、業界の垣根を超えて、さまざまな企業や団体、自治体などが集い、特定非営利活動法人（内閣府認定NPO）として設立されました。当社は、発足当初から、協力、支援を行うとともに、会長には当社会長兼CEOの和田 勇が就任しています。2017年1月現在の会員数は108団体に達しています。

キッズデザイン協議会では、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを産み育てやすいデザイン」のこの三つのミッションで活動が行われています。

その一つの活動として「キッズデザイン賞」が設けられ、2016年までに10回実施されています。2013年からは、最上位の賞として「内閣総理大臣賞」も創設されました。

弊社は第1回から継続して応募し、これまでに多数の「キッズデザイン」製品・サービスを開発しています。2016年度は安全配慮引き手、住宅建築現場への女性用仮設トイレの開発と普及など3部門で計10点が「キッズデザイン賞」を受賞しており、賞の創設以来10年連続の受賞となります。



### さまざまなイベントや研究活動に協力

2016年度もさまざまなキッズデザイン協議会の活動に参画しました。

安全に配慮した商品のPR・普及を目的に開催された『セーフティ・グッズ・フェア with サイエンスアゴラ2016』（東京都、東京都立産業技術研究センター、産業技術総合研究所との共同主催）では、《子供の遊びあるあるセミナー》に協力しました。

東日本大震災の被災地の子どもたちに元気と笑顔を届ける「子どもたちの元気プロジェクト」の一環で毎年開催されている『キッズワークショップカーニバル in ふくしま@福島県福島市』にも協力しました。

調査研究活動においては、子どもの持つ純粋で直観的な思考や行動、感性を探る『こどもO S研究会』等に参画しています。

また2014年にはキッズデザイン協議会が行っている、子どもの安全の向上を目的とする第三者認証制度である「CSD(Child Safety through Design)認証」を『積水ハウスのキッズでざいん コドモイドコロ』が取得し、子どもの安全視点で開発された商品として、2016年に行われた更新審査においても高く評価されました。





CSD認証ロゴマーク

関西エリアにおいては、「キッズデザインミーティングin KANSAI」および、定例会の活動を推進しています。



キッズワークショップカーニバル in ふくしま

#### 【関連項目】

- > [積水ハウスのキッズでざいん](#)
- > [「NPO法人 キッズデザイン協議会」ホームページ](#) 
- > [子どものためのユニバーサルデザイン「コドモイドコロ」](#) 
- > [2016年度 社外からの主な評価](#)

## 「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動

和歌山県「企業の森」事業に参画し、取り組み10年を経て、同じ田辺市中辺路町にて新たに「積水ハウスの森」を開始しました。「5本の樹」計画に考慮した森林保全活動を継続します。また、「東京グリーンシップアクション」八王子滝山地域および大谷地域の里山保全活動へも継続参加しています。

### 和歌山県「積水ハウスの森」第2期スタート！

積水ハウスは、2006年から「企業の森」事業※に参画し、森林環境保全活動に取り組んでいます。これは、和歌山県が推進する環境貢献に関心の高い企業が県内の自然を活用して地域の方々と共に取り組む活動です。

昨年、10年間の節目を迎え、「積水ハウスの森」での森林保全活動により森が十分成長してきたため、管理を森林組合に引き継ぎ、2016年秋の活動から、今までの活動地から約10km東方に移動し、世界遺産・熊野古道に近接した場所（1.6 ha）で第2期目をスタートしました。

初回となる2016年11月15日の活動では、和歌山県、田辺市からのご来賓を迎え、好天のもと、記念植樹式を実施し、地元メディアからの取材も受けました。当社並びにグループ会社従業員、協力会社の方々等、総勢76人がボランティア参加し、中辺路町森林組合の指導の下、「5本の樹」計画に基づく地域の在来樹種（ケヤキ、クヌギ、ヤマザクラ、ヤマモミジ等）を約800本植樹しました。また、中辺路町婦人会の方々にトン汁を作っていただくなど、心も体も温まる、地元の方々との交流を図りました。また、本社「企業の森」WGメンバーを中心に、往復の車中や現場でのゴミ分別等の環境活動を徹底し、実りの多い植樹活動となりました。

今後も春・秋の2回、新たな植樹や補植、下草刈り、肥料やりなどの作業を行い、豊かな森を次世代に伝える「積水ハウスの森」の整備に取り組んでいきます。なお、2016年秋の活動を終え、参加人数は延べ1596人となりました。



記念植樹式



現場でゴミを分別回収



集合写真



活動後

※ 企業が地元の森林所有者の伐採地を借り、植樹や下草刈りに参加することで、十分な手入れが行われない放置森林や荒廃森林の増加を防ぐために、森林保全を目指す制度。特に和歌山県では、森林の豊かな土地で、日常的な管理を地域の森林組合に委託することで、地域活性化や雇用支援にもつながる取り組みとして、県が積極的にコーディネートし、取り組んでいます。

## 「東京グリーンシップアクション」八王子滝山・八王子大谷地域里山保全活動へ継続参加

2016年は5月と11月の2回にわたり、東京営業本部内8支店（東京北、東京西、東京南、多摩、町田、武蔵野、東京シャーウッド、東京分譲）が合同し、「東京グリーンシップアクション」八王子滝山地域および大谷地域の里山保全活動に参加。今回で合計8回となりました。

「東京グリーンシップアクション」とは、東京都条例に基づき、都内に残る貴重な自然地を守るために、東京都、NPO、企業とが連携して行う自然環境保全活動です。

活動場所は、東京都八王子市北部に位置する4ヘクタールの保全地域で、当初は長年の管理不足によるアズマネザサの繁茂や外来種の侵入などが見られました。良好な里山環境を取り戻すため、当初2年間は多様な生き物の生息空間に配慮しながら、ササの伐採、倒木処理、池づくりを行いました。また、昨年からは放棄された水田を復活させ、今年で2度目の収穫となりました。来年はさらに水田面積を増やし、水路周辺の環境を整え、里山の代表的な生き物であるホタル（ゲンジボタル、ヘイケボタルの2種）の生息数を増やしていく予定です。

「エコ・ファースト」の約束の一つである「生態系ネットワークの復活」の具体的な取り組みとして、今後も社会や未来のために活動を継続します。



保全活動参加者の集合写真



作業の様子



## 「グリーンファースト」推進による埼玉県での環境保全活動

積水ハウスの環境配慮型住宅「グリーンファースト」を1棟建築するごとに2000円を、環境保全に取り組む埼玉県「彩の国みどりの基金」に2016年度は合計132万4000円を寄付しました。植樹、地域産材の活用にも積極的に取り組んでいます。

### 環境配慮型住宅「グリーンファースト」1棟建築につき2000円を寄付

当社が太陽光発電システムや家庭用燃料電池を組み合わせた環境配慮型住宅「グリーンファースト」を1棟建築するごとに2000円を、緑豊かな埼玉を守るため、「森林の保全整備」「身近な緑の保全・創出」「環境教育」の推進に取り組む、埼玉県「彩の国みどりの基金」に寄付しています。2016年度は662棟132万4000円を寄付し、5月、埼玉県より「彩の国みどりの基金」の感謝状が授与されました。

年度	棟数	寄付金額
2010~2012	2,550棟	5,100,000円
2013	992棟	1,984,000円
2014	1,154棟	2,308,000円
2015	723棟	1,446,000円
2016	662棟	1,324,000円
累計	6,081棟	12,162,000円

### 植樹、地域産材の活用も推進

埼玉県植樹本数調査に参加し、「5本の樹」計画を通じてお客様に庭への植樹を積極的に提案させていただき、2016年度は5万559本をエントリーしました。さらに、木造住宅シャーウッドに埼玉県産材である「秩父檜」を構造材の一部に採用する取り組みや、彩の国リバーサポート制度に参加し、河川の美化活動などの取り組みも実施しています。

年度	植樹本数
2010~2012	146,963本
2013	34,486本
2014	43,840本
2015	35,619本
2016	50,599本
累計	311,507本

社会貢献 | 地域社会への貢献

## 経年美化のまちづくり

積水ハウスは「コモンライフ」「コモンシティ」と名付けたまちづくりに取り組んできました。隣人同士のつながりやコミュニティを意識して設計し、緑豊かな共有広場や街路をシンボルとして設置するなど、より豊かな暮らしとまちのあり方への提案は、歳月を重ねるごとに美しくなる経年美化にもつながり、地域の皆様から高く評価されています。

当社は、1977年から「コモンライフ」「コモンシティ」と名付けたまちづくりに取り組んできました。コモン(Common)とは「共有の」を意味する英語で、当社のまちづくりのコンセプトです。さらに、2005年に住宅メーカーとして未来への責任を果たすために、「サステナブル宣言」に基づき、「まちづくり憲章」を制定しました。

これは当社のまちづくりの中で培われてきたさまざまなノウハウを、持続可能性の考えに基づいて表現したものです。当社が考える4つの価値(環境価値・経済価値・社会価値・住まい手価値)をベースにした「環境マネジメント」「経済マネジメント」「タウンマネジメント」「生活マネジメント」の4つの視点を持ち、具体的な24指針を考慮しながら「スマートコモンシティ」をはじめとしたまちづくりを進めています。

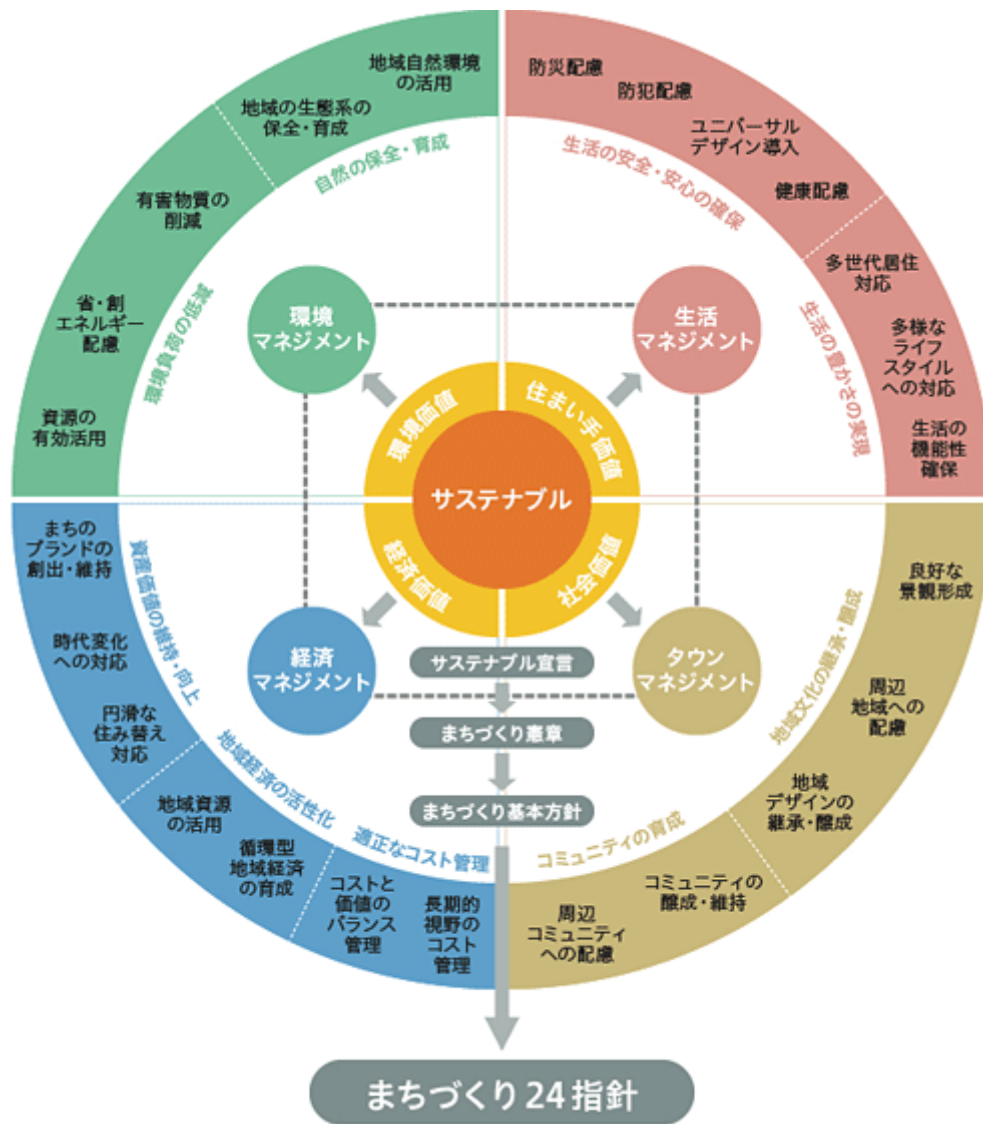
### まちづくり憲章

人がいつまでも安心して豊かに暮らしていくために

かけがえのない地球の自然と環境をまもり地域の文化とコミュニティを育み  
地域経済の活性化に貢献するとともにまちの資産価値を守ることが私たちの願いです。

積水ハウスは社会の責任ある一員として

住まいとまちがつくりだす住環境を人の大切な生活基盤と受け止め  
まちづくりを通して持続可能な社会の構築に寄与することを目指します。



## まちなみ評価制度COMMON'S

当社は2005年に「まちづくり憲章」を制定、2006年に「まちなみ参観日」をスタートとし、緑豊かで経年価値を高めていく、独自のまちなみへの取り組みを常に時代を先取りする形で進めてきました。一方、分譲地の一部では、生態系への配慮やまちなみの景観形成の面で改善余地のあるケースもあり、全国の当社のまちなみを一定のレベル以上を守る目標として、まちなみ評価制度

「COMMON'S」を2014年に創設しました。

この制度は、環境との調和を図る「5本の樹」計画、持続可能で経年美化につながるエクステリアデザインを柱に5段階の基準を設け、評価することで、お客様のニーズに合った質の高いまちなみの提供を図っていくものです。

2016年度は分譲中の85団地を評価。75団地（88%）が目標である★3以上となりました。



佐倉染井野みかげ坂（千葉県）

## 「経年美化」のまちづくりを実践

当社はまちづくりにおいて、歳月を重ねていくごとに美しくなる「経年美化」の思想を実践しています。

「経年美化」のまちづくりとは、自然環境や原風景を生かした景観づくりを目指し、劣化しない素材を選んで耐久性の高い施工方法を採用すること（ハード面）と、豊かなコミュニティが生まれる環境も配慮し、まちが完成した後の運営と環境との調和を図る循環型の暮らし（ソフト面）とのバランスによって成り立ちます。

資産価値を求めめるばかりではなく、地域文化とコミュニティをはぐくみ、さらに、地域生態系本来のバランスを基本とし、将来にわたってすべての人が快適に暮らせる持続可能な「まち」であること。それが当社の目指す「経年美化」のまちづくりです。

広島県にある大型団地「みどり坂」では、戸建分譲地エリアではみどりが育ち経年美化しており、新しい街区も順調に創られています。換地で得た大型土地のオーナー様による賃貸住宅が建ち並ぶ街区においても、団地協定を守ったみどりの管理による「経年美化」のまちづくりができています。



2003年撮影

みどり坂（広島県）



2016年撮影



2016年撮影

賃貸住宅街区のまちなみ

特色ある当社のまちづくりや住まいづくりを多くの方々にご紹介、ご案内することを目的に、2006年から「まちなみ参観日」を春と秋の年2回、全国各地で開催しています。

2016年度は、春の「まちなみ参観日」を戸建住宅399会場・分譲マンション物件11会場で、秋の「まちなみ参観日」では戸建住宅531会場・分譲マンション9会場それぞれ開催し、当社のまちづくりと住まいづくりを体感いただきました。



「まちなみ参観日」のまちなみと建物

社会貢献 | 地域社会への貢献

## 「ひとえん」づくりによるコミュニティの醸成

住民間の豊かな関係の形成を目指し、積水ハウスのまちにおけるコミュニティを「ひとえん」と名付け、まちづくりを進めるとともに、「ひとえんイベント」などの活動を支援しています。2016年は、埼玉県が推進する「共助」を切り口に「コモンライフ武蔵藤沢」にて「共助のまちづくり」を行いました。

人口減少や少子高齢化などが進む中、高齢者への生活支援、介護・育児に関する相互扶助、治安の向上や災害時対応など、顕在化するさまざまな課題への対応がコミュニティに求められています。当社では、まちづくりの際に「コミュニティの育成」に重点を置き、住まい手と共に成長・成熟していくまちのコミュニティづくりを支援しています。住民間の豊かな関係を形成していくことを目指し、当社のまちにおけるコミュニティを「ひとえん」と名付け、まちづくりに生かすとともに、取り組みをサポートしています。

「ひとえん」づくりのメニューとして、「ひとえん」を始めるきっかけづくりとして「ひとえんイベント」を提案しています。住民の方に準備段階から参加していただくことや、住民に積極的に参加していただくための企画を行っています。2016年は戸建住宅団地で延べ36回（33団地）、マンションで9回（8カ所）開催し、参加者総数は1946組、4575人でした。2009年に取り組みを開始して以来、全国各地の団地で延べ440回の開催となりました。

### 「ひとえん」を活用した「共助のまちづくり」（コモンライフ武蔵藤沢）

当社分譲地である「コモンライフ武蔵藤沢」（埼玉県入間市）において、埼玉県が推進している「共助」を切り口に、当社がこれまで行ってきた「ひとえん」の取り組みをベースに新しいまちづくりを提案。2014年度の国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業<一般部門>」に選定され、全16区画の分譲地である「コモンライフ武蔵藤沢」にて、「ひとえん」をはぐくむまちづくりを行いました。

建売住宅を「ひとえんラボ」として半年間一般公開し、見学用の住宅としての機能以外にも、NPOと連携して子育て支援イベントを行う場としての機能を持つ、コミュニティづくりの核となる施設として運営しました。

また「ひとえんラボ」が面する分譲地内の共用スペースを「ひとえんコモン」と名付け、子どもたちの遊び場としても利用できるよう計画。子どもたちの交流を通じた輪が親世代に、そして分譲地内だけでなく近隣住民にも広がり、多世代の住民同士の自然な交流が生まれ「安全・安心」のコミュニティがはぐくまれることが期待されます。

今回のまちづくりにおける経験と知見を生かし、今後も「共助」の考え方に基づく提案を継続していきます。



全16戸の敷地計画



NPOと連携しておこなった子育て関連イベント

【関連項目】

> [2014年度の国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業<一般部門>」の完了報告書](#)  
(PDF:4183KB) 

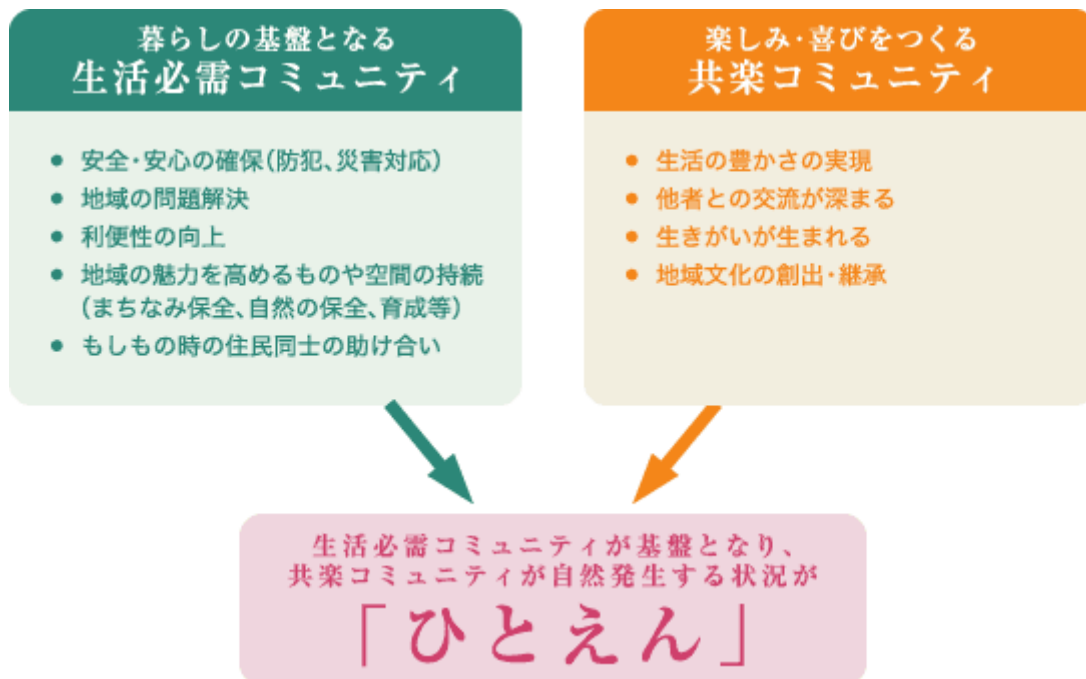
### 3つの視点を体系化し、良質なコミュニティづくりに寄与する「ひとえん」

良質なコミュニティづくりのためには、普段のご近所付き合いができる場づくりと、そこで生まれる住民の方の会話のきっかけづくりが必要で、さらにコミュニティの継続のためには、きっかけづくりで生まれた住民同士の関係を維持しながら、まちの管理を行う組織づくりが必要であると考えています。

当社はこれまでのまちづくりの実績で培ってきた経験やノウハウをもとに、暮らしの基盤となる「生活必需コミュニティ」から、楽しみ・喜びをつくる「共楽コミュニティ」が自然発生する状況を「ひとえん」と名付け、当社のまちで「コミュニティ育成支援メニュー」として設定しました。

そしてこの「ひとえん」を、住宅メーカーとして直接関与できる「場づくり」、コミュニケーション活性化のための「きっかけづくり」、まちの管理などを担う「組織づくり」という3つの視点から考え、まちのコミュニティ形成に寄与しています。

また、きっかけづくりと組織づくりを担う「まちづくりアドバイザー」も配置し、コミュニティの成熟段階に合わせて適材・適時、良質なコミュニティづくりをサポートしています。



## ■ 「ひとえん」の舞台となる「場」づくり

---

住民同士が出会い、集う場（空間）づくりや、わがまち意識を醸成する愛着空間づくりを行います。（維持管理ルールも含みます）

- 一つの庭からまちを育てる「つながる庭」
- まちに点在する集まり場「いどばたスペース」
- さまざまな活動ができる「コモンプラザ」「コモンパーク」
- わがまち意識を醸成する「まちの顔」



## ■ 「ひとえん」を始める「きっかけ」づくり

---

住民同士が出会うイベントの実施や、コミュニティ活動の声掛けなどのきっかけづくりを行います。

- 食事系（食事会・隣人祭りなど）
- 花緑系（植樹祭・ガーデニングイベントなど）
- 維持管理系（公園の草刈り・住まいのお手入れセミナーなど）



## ■ 「ひとえん」の核となる「組織」づくり

---

コミュニティの代表として、住民の意見をまとめる組織の設立サポートや、加入促進を行います。

- 自治会
- 管理組合
- 建築協定委員会





## 既存郊外住宅地の持続可能な住環境の実現を目指す取り組み

積水ハウスは、まちびらき後20年超の当社郊外戸建住宅地を主な対象とし、「持続可能なまちづくりの実現」に向けた取り組みを進めています。2016年は「多世代交流の場と機会の創出」、「暮らしを継続できる拠点整備」を見据えた取り組みを継続実施しました。

近年、暮らしの利便性を求めて、都市に移り住む生活者が増加する一方で、かつて都心部の人口増加の受け皿として開発された近郊～郊外の住宅団地では、住民の高齢化、地域コミュニティの希薄化、空き家や空き地の増加などが顕在化し始め、社会問題となっています。当社は、地域コミュニティ活性化と持続可能な住環境の実現に向けた取り組みを各地で進めています。住民の満足度向上と、当社との信頼関係づくりを目指した交流イベントを継続的に開催。住まい、まち、暮らしに関する相談窓口となる拠点の整備も視野に取り組みを進めています。

### 『コモンシティ星田 まち・ひと・げんき祭』

当社の代表するまちづくり事例である「コモンシティ星田」（大阪府）において、地域コミュニティ活性化イベントとして2015年秋から半年に1回「まち・ひと・げんき祭」を継続的に開催しています（2016年は2回開催）。



第2回 2016/07



第3回 2016/11

第2回イベントでは、暮らしに関するセミナーとして、「ガーデニングセミナー」や「フラワーアレンジ」、収納アドバイザーによる「快適収納セミナー」に加え、参加型のイベントとして「石ころアート教室」や「暮らしのカフェ」を実施。次に行って欲しいイベントの内容や住まいに対するお困りごと等をお話いただく機会のもとになっています。さらにアンケートを行い、住まいに対する関心事を調査しました。その結果を、次回のイベントに向けたプログラムづくりに反映させています。（第1～3回：延べ195世帯が来場）。



「ガーデニングセミナー」、「快適収納セミナー」、「フラワーアレンジ」

また、第1回より継続的に「写真展」を同時開催しています。開発当初と現在のまちなみの写真を比較展示したり、住民の皆様から、庭やペット、思い出深い写真を持ち寄っていただき、展示しました。住民の皆様は、緑豊かに経年美化したまちなみを実感され、まちへの愛着が一層高まったようです。



「写真展」、「まちかどカフェ」

### 『コモアしおつ まち・ひと・げんき祭』

「コモアしおつ」（山梨県）では、2016年11月に、まちびらきから25周年を記念した住民の皆様への感謝際として「まち・ひと・げんき祭」を開催しました。「写真展」では、造成時から今に至るさまざまな写真や新聞記事に加え、住民の皆様からも貴重な資料を多くご提供いただき、展示しました。他にもまちびらき当時開催されていた住民主体による音楽祭の上映会を実施し、ご覧になった住民の皆様は当時の様子を懐かしんでおられました。

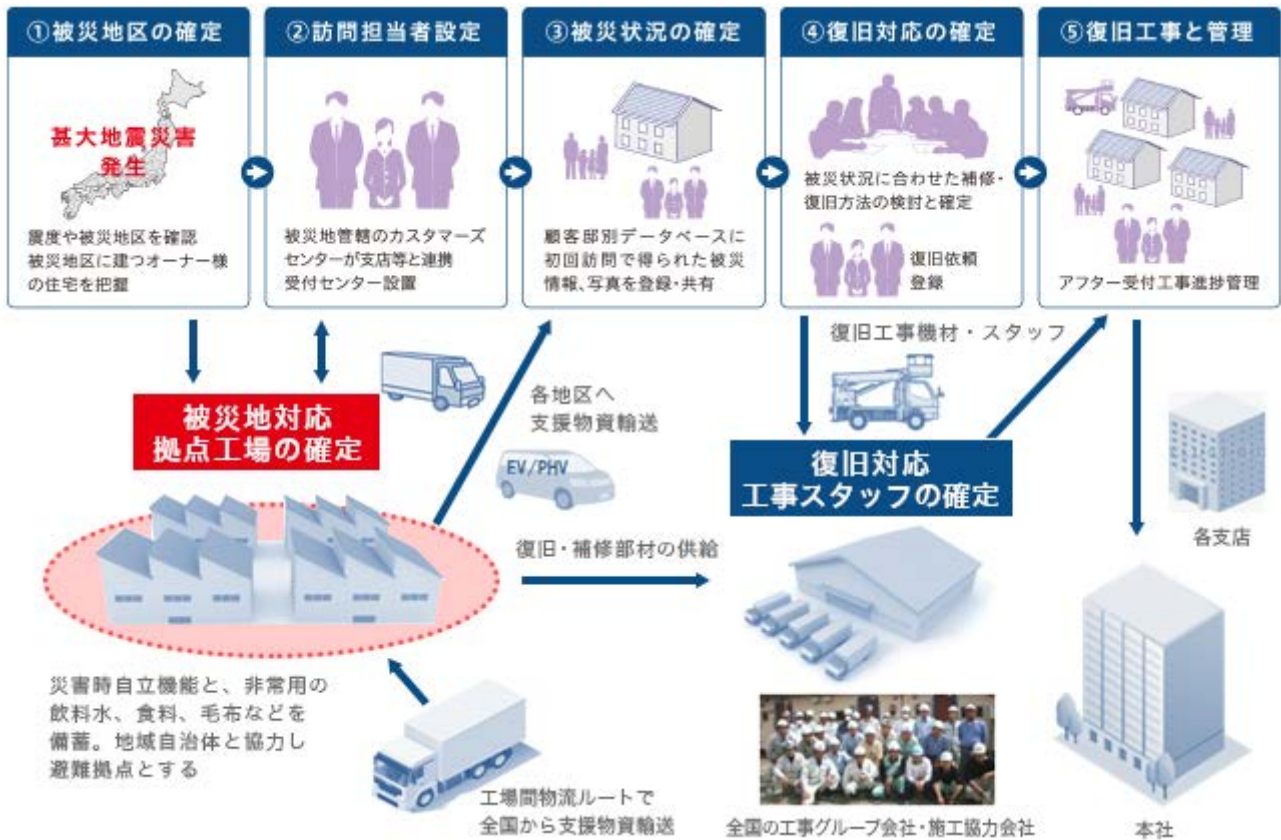


「写真展」、「音楽祭上映会」

## 災害時の復旧支援体制

自然災害が発生した場合の被災者の安否・被害情報の確認や支援体制の確立などに、迅速に対応しています。積水ハウスグループとして、災害時のお客様の暮らしの迅速な復旧を目指し、情報から物流に至るまで災害に備えた体制の整備に努めています。東北工場における「防災未来工場化計画」はこの一環です。

### 支援の流れ



- ① 甚大地震発生時、被災地区のオーナー様情報をデータベース（DB）から把握。被災地に最も近い工場が災害対応拠点として自立始動。全国拠点から順次、備蓄品を補給。
- ② DBから得られた被災地域オーナー様の安否確認や建物調査の担当者を決定。被災地域からのホットライン、専用窓口を開設。
- ③ 被災状況の確認、DB登録。必要に応じオーナー様に支援物資を提供。
- ④ 復旧方法の検討と決定、全国ネットワークで具体的な工事体制が始動。
- ⑤ 復旧工事に着手。対応記録は事業所・本所に保管。

静岡工場では、2004年に発生した新潟県中越地震を支援した経験を生かし、従業員だけでなく、地域の皆様にとってもお役に立つものにするために、備蓄品は、食料や水といった生活必需品から復旧用の工具やシャベル、医薬品など多岐にわたってそろえており、東日本大震災（2011年）においては、主要交通網が寸断された被災地のお客様や事業所に向け、支援物資の供給を早急に行いました。地震発生3時間後には静岡工場に備蓄している水や食料をトラックに積み、被災地に向け第一便が出発。その後も順次、現地に支援物資を輸送しました。支援物資はお客様や従業員だけでなく、病院や避難所、一般被災者の方々にもお渡ししました。また、グループ丸となり、炊き出しや支援物資受付に使用するテントと仮設トイレの設置、賃貸物件の一部を被災者支援住宅として提供しました。

2016年4月の熊本地震では、当社オーナー様宅で人的被害や家屋の全半壊はありませんでしたが、オーナー様に一日も早く平穏な暮らしを取り戻していただけるよう、復旧・復興に取り組んでいます。

前震直後に、九州営業本部に「連携対策本部」を、続いて熊本に「現地対策本部」を設置し、被災地域の社員とその家族の安否や被災状況を確認。約1万件のオーナー様の安否と被災状況の確認を6月上旬には完了することができました。工場や本社の備蓄物資の速やかな輸送、施工・技術支援体制の迅速な整備、iPadを活用したオリジナルアプリによる被災情報の共有などが奏功した結果であると考えています。

復旧段階から復興段階へと移行した現在は、基礎や構造などの大規模な工事や復興住宅の建築にグループを挙げて取り組んでいます。

2016年10月に発生した鳥取県中部地震では、グループを挙げて対応に当たり、震災3日後にはオーナー様の安否と被災状況の確認を完了することができました。



お客様のお宅を訪問する前の最終確認



補修工事

当社東北工場（宮城県加美郡色麻町）で防災未来工場化計画を実施しています。当社独自の「住宅防災」の考え方を基軸に、オーナー様や地域住民に安全・安心を提供。スマートエネルギーシステムを整備し、災害時の初動迅速化とエネルギー自衛化を図るとともに、災害に強いコミュニティの先進的な連携モデルの構築を目指すものです。

防災機能を強化し、災害発生時には、東北地域のオーナー様への緊急サポート拠点として機能するだけでなく、近隣エリアの避難所として機能するとともに、必要最低限の電気・水・ガスを確保。色麻町との防災協定に基づき、住民、地域組織とも防災連携を深め、実践的訓練を実施することにより、災害に強いコミュニティづくりに貢献し、地域全体の防災力を高めていきます。

2015年3月に開催された「第3回国連防災世界会議」では、東北工場のスタディツアー（被災地公式視察）の公式視察地として最多（29カ国201人）の参加がありました。

### 【関連項目】

---

- > [自然災害発生時の対応](#)
- > [自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み](#)

### 社会貢献 | 地域社会への貢献

## 「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力

積水ハウスはNPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスの活動を応援しており、建物の建設に当たって約2億2000万円の寄付を実施したほか、総合設計・企画および施工を担当しました。また、建設後も、さまざまなかたちで支援活動を行っています。

### 小児がんと闘う子どもが、家庭のような環境で治療に専念できる「チャイルド・ケモ・ハウス」の建設に協力

「チャイルド・ケモ・ハウス」は、NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスが2006年から建設実現に向けて活動を続けてきた「がんと闘う子どもたちが暮らすケアホーム」で、2013年3月に完成しました。「病院」や「施設」ではなく、「家」に近い環境で、親やきょうだいと暮らしながら治療を行えるメリットがあります。当社はこれまで、従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスの活動を応援してきました。今回の建設に当たっては、約2億2000万円の寄付を実施したほか、総合設計・企画および施工を担当しました。また、建設後もさまざまなかたちで運営に協力しています。



「チャイルド・ケモ・ハウス」外観

### 建築概要

- 【建築地】 神戸市中央区港島中町8丁目5番3（ポートアイランド 神戸医療産業都市内）
- 【建築主】 公益財団法人 チャイルド・ケモ・サポート基金
- 【総合設計・企画】 手塚 貴晴、手塚 由比、株式会社手塚建築研究所、積水ハウス株式会社
- 【施工】 積水ハウス株式会社
- 【構造・規模】 重量鉄骨造（ベレオ）／地上1階建
- 【延床面積】 1931.50m<sup>2</sup>

自然光を多く採り入れることができるよう天窓を随所に配置したほか、子ども視点のクリーンな空気環境を実現する当社独自の空気環境配慮仕様「エアキス」を採用しています。また、外構には「3本は鳥のために、2本は蝶のために」をコンセプトに、生物多様性に配慮した「5本の樹」計画を中心に自生種、在来種を中心とした植栽を実施。大きな窓から、樹木に訪れる野鳥や蝶を眺めることで、情操教育にもつながります。

また、2013年10月には、同施設内に子どもたちがリラックスして診療を受けられる「乳幼児診察室」を新たに開設。当社の「キッズでざいん」などの要素を取り入れ、積水ハウスリフォームが施工を担当しました。

### 受賞歴

- 「グッドデザイン賞」（2015年）主催：公益財団法人日本デザイン振興会
- 「第17回人間サイズのまちづくり賞」まちなみ建築部門（2015年）主催：兵庫県
- 「第2回神戸市都市デザイン賞」まちのデザイン部門 建築文化賞（2014年）主催：兵庫県神戸市
- 「第7回キッズデザイン賞」キッズデザイン協議会会長賞（奨励賞）（2013年）主催：特定非営利活動法人キッズデザイン協議会

## 社員を通じたさまざまな支援活動

本社部門の社員に呼び掛けて、2013年度より「チャイルド・ケモ・ハウス」の施設見学会を実施しています。毎回、定員を超える社員が参加し、チャイルド・ケモ・ハウス事務局の方のお話を直接聞くとともに、チャリティグッズの購入や施設内外の清掃活動を行いました。

また、参加者が全員おそろいのチャリティTシャツを着用し、神戸の街を歩く「チャリティウォーク」へも2013年開始当初より、毎年参加しています。

他にも、チャリティTシャツを着用したオーナー様対象のイベントを開催したり、売り上げの一部を寄付する自動販売機の設置やグランフロント大阪「住ムフムラボ」内で募金を呼び掛けるコーナーを設置するなど、継続的に支援を行っています。



社員を対象とした「チャイルド・ケモ・ハウス」の見学会、施設の清掃活動



「チャリティウォーク」へ社員有志で参加



「チャイルド・ケモ・ハウス」のオリジナルTシャツを着てオーナー様対象のイベントを開催（大分支店）



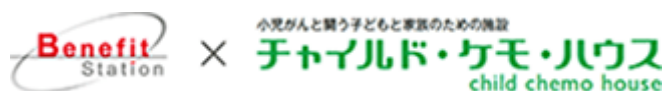
グランフロント大阪「住ムフムラボ」内の募金コーナー



各地に設置されている寄付型自動販売機  
 <左：兵庫シャーマゾン支店（兵庫県）、中央：総合住宅研究所（京都府）、右：リフォーム研修センター（滋賀県）>

## 「ベネフィット・ステーション」を通じた寄付活動

当社で導入している福利厚生代行サービス「ベネフィット・ステーション」を通じた寄付活動に取り組んでいます。ベネフィット・ステーションで提供している宿泊施設やショッピングなどをするごとにたまっていく専用のポイント「ベネポ」を使い、1ベネポ1円相当として、100ベネポ単位で寄付することができます。



## 「積水ハウスマッチングプログラム」を通じた活動支援

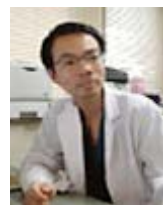
会社と従業員の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、2008年から活動を支援。小児がんのケアにかかわる看護師等のスタッフ育成プログラムの作成に向けた研究活動や子どもたちの苦痛を和らげ快適な環境をつくるためのツール開発、社会への啓発活動等をサポートしました。

	助成プログラム	助成金額
2008年度	小児がんの患児のケアにかかわる スタッフトレーニング&エンパワーメントプロジェクト	1,092,000円
2009年度	小児がんの患児のケアにかかわる スタッフトレーニング&エンパワーメントプロジェクト	1,280,000円
2011年度	小児がんの子どもと家族を笑顔にするための活動の研究と実施	1,000,000円
2014年度	長期間入院中の子ども達への教育サポートプログラムの構築と実践	800,000円
2015年度	長期間入院中の子ども達への教育サポートプログラムの構築と実践	800,000円



2005年6月、「小児がんの子どもと家族にとって、理想の治療環境とは何か」を考えるため、医療関係者と患者さんのご家族が集まったことが、チャイルド・ケモ・ハウスの活動の始まりでした。小児がんの治療は、「入院が長期になる」「抗がん剤の使用による免疫機能の低下で、風邪などの感染症になると命にかかわる」という二つの特徴があります。私たちは「がんになっても笑顔で育つ」「理想の病院は家です」というキャッチフレーズのもと、小児がん治療時も日常生活を維持し、子どもが健やかに成長できる環境を提供したいと考えています。

多くの方々からのご寄付と、積水ハウス様、手塚建築研究所様との夢のコラボレーションにより、感染症対策に重要な空調など、最新の技術を採用したこの理想の施設は完成しました。積水ハウス様には、施設建設費の2億円以上のご寄付をはじめ、研究助成などに継続的なご支援をいただき、心より感謝しています。皆様の温かいお気持ちを励みに、これからも新しい医療のかたちを目指していきたいと思えます。



チャイルド・ケモ・クリニック  
医院長  
楠木 重範さん

### 【関連項目】

.....  
> [「NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウス」ホームページ](#) 

## 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金を設立し、NPOなど多くの団体を支援しています。

1996年、六甲アイランド（神戸市東灘区）と深いかかわりのある積水ハウスとP&G社が共同で、神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金を設立。NPOなど多くの団体の活動を支援しています。

2016年度は31件の活動に1780万円を助成し、これまでの助成金額累計は4億4262万円となりました。

### ■ 基金の仕組み



当基金は主務官庁である兵庫県の許可を受け、委託者（当社、P&G社）が公益を目的として受託者（三井住友信託銀行）に財産の管理・運用を委託しています。助成先、金額については年1回開催される基金運営委員会で決定されます。

## 国際コミュニティづくり事業

在日外国人や新たに来日した外国人に対する日常生活ガイダンス活動、地域住民との交流活動、情報交換活動等。

	受給者氏名	助成対象
1	RIC音楽工房	第22回 みどりの風コンサート
2	あじさいコンサート実行委員会	第22回あじさいコンサート ～未来へ～ 音楽でつなぐ心と絆
3	特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター	在日ベトナム人高齢者支援事業
4	NPO法人関西ブラジル人コミュニティCBK	多文化交流ネットワークづくり
5	RICコミュニティライブラリー	RICコミュニティライブラリー（地域図書館）の運営・管理
6	定住外国人子ども奨学金 実行委員会	外国にルーツを持つ子どもの進学支援と豊かなまちを創生するための課題 普及活動
7	北野こくさい夏祭り実行委員会	北野こくさい夏祭り
8	六甲アイランドカップ実行委員会	六甲アイランドカップ
9	Community House and Information Center(CHIC)	コミュニティハウス アンド インフォメーションセンター
10	六甲アイランドチューリップ祭実行委員会	六甲アイランドチューリップ祭と関連事業
11	特定非営利活動法人 実用日本語教育推進協会	日本語を核とした新しい形の国際 交流の事業
12	RICふれあい会館	「外国人講演会」及「住民トーク」
13	特定非営利活動法人国際音楽協会	第6回中国音楽国際コンクール・入賞者 表彰式及び記念演奏会
14	多文化交流フェスティバル実行委員会	多文化交流フェスティバル
15	神戸市立小磯記念美術館	RICエコアートカプセル2016 ーアートでつなぐ あいランドー

	受給者氏名	助成対象
16	特定非営利活動法人多言語センターFACIL	ことばの壁を越えて、災害に備える ―災害情報の伝え方セミナーと災害医療通訳研修の開催
17	ひょうごラテンコミュニティ	フィエスタペルアナ神戸2016 ～神戸開港150周年と南米の つながりを次世代に伝えよう～
18	西区連合婦人会	国際交流の夕べ なでしこの盆
19	特定非営利活動法人 アジア女性自立プロジェクト	在日外国人女性に向けた情報発信・相談活動とその促進事業
20	NGO神戸外国人救援ネット	外国人のための総合相談事業および問題解決のための援助とフォローアップ活動
21	六甲アイランドCITY自治会	第29回RICサマーイブニングカーニバル
22	インターナショナル・キッズ・デイ実行委員会	International Kid's Day (インターナショナル・キッズ・デイ)
23	六甲アイランド地域振興会 商業部会 手作りコイノポリプロジェクト	六甲アイランドコイノポリ手染め大会
24	六甲アイランド地域振興会 商業部会 ウェルカムフェスティバルプロジェクト	六甲アイランドウェルカムフェスティバル2016
25	六甲アイランド地域振興会 スポーツ振興部会 スポーツ振興プロジェクト	RIC SPORTS EXPO 2016春・秋
26	六甲アイランド地域振興会 商業部会 ハロウィンフェスティバルプロジェクト	六甲アイランドハロウィンフェスティバル&収穫祭2016
27	六甲アイランド地域振興会 商業部会 光の街プロジェクト	六甲アイランド光の街プロジェクト
28	多文化と共生社会を育むワークショップ	みんなでつくる文化と共生社会 (The KOBE Globe I編)
29	W・S ひょうご	外国籍DV被害女性とその子ども への支援活動
30	NPO法人Peace&Nature	International Project“AKIYA-Kaizen” 国際交流ベースづくり事業2016 地域の魅力を外国人に伝えよう!

## 文化的な都市環境づくり事業

私有地（個人・法人所有を問わない）でありながら、公共の利用に提供しているスペース等の環境整備・充実のための事業（ベンチ、街灯、花壇の設置、植樹等）。

	受給者氏名	助成対象
	2016年度は該当なし	

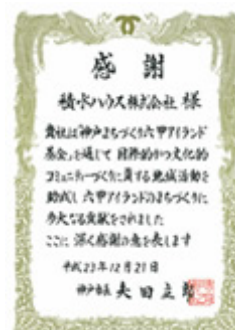
## 広報・調査・研究活動

国際的な新しいコミュニティづくりや文化的な都市環境づくりに関する広報、講演、シンポジウム開催及び調査、研究活動等。

	受給者氏名	助成対象
31	ベトナム夢KOBÉ	ベトナム夢KOBÉ設立15周年記念事業シンポジウム 「ベトナム難民の経験の記録と継承」

## 社外からの評価

2011年12月、基金設立以来の15年間にわたり、地域団体、NPO、ボランティア団体が実施する413件の活動に助成を実施し、国際的・文化的なコミュニティづくりを支援してきた実績が評価され、当社、P&G社がそれぞれ神戸市より感謝状を授与されました。



## これまでの取り組み

[2013年度助成団体](#) 

[2014年度助成団体](#) 

[2015年度助成団体](#) 

### 社会貢献 | 地域社会への貢献

## チャリティーフリーマーケットの実施

積水ハウスグループでは、関西の事業所合同でチャリティーフリーマーケットに参加。社会課題の解決を担う団体の活動を20年以上にわたり支援しています。2016年度は、売上金と社員からの寄付金を合わせた総額20万2871円を寄付しました。

積水ハウスグループでは、各地でチャリティーフリーマーケットやチャリティーバザーなどを実施。売上金は、自然災害の被災地で復興支援活動を行う団体、各地域において社会課題を解決するための活動を担う団体などに寄付しています。

2016年11月、JR新大阪駅前で行われた、ノーマライゼーションクラブ※主催のチャリティーフリーマーケットに参加しました。1994年から毎年継続している恒例行事で、関西エリアの全事業所（本社・グループ会社を含む）の社員が、未使用の贈答品など各家庭で活用していない品物を持ち寄り、値付け作業から当日の販売まで協力して行っています。今回は売上金と社員からの寄付金を合わせた総額20万2871円を社会福祉法人ノーマライゼーション協会※に寄付しました。同協会を通じて高齢者福祉や障がい者の自立支援などに役立てられています。

※ 社会福祉法人ノーマライゼーション協会では、障がい者や高齢者などの社会的弱者と「共に生きる」社会の実現を目指し、仕事や生活などの面で、さまざまな支援を行っています。積水ハウスは1991年から会員になっています。ノーマライゼーションクラブは、同協会の後援組織です。



2016年11月12日、集まった品々を社員有志で販売しました。良い品が安価で手に入ると、地域の方々にも喜ばれています

### 社会貢献 | 地域社会への貢献

## 「こどもの日チャリティイベント」への参画

2016年5月3～5日、新梅田シティ（大阪市北区）で「こどもの日チャリティイベント」が開催されました。積水ハウス株式会社およびグループ会社の積水ハウス梅田オペレーション株式会社は、この行事を主催する「世界のこどもを救おう実行委員会※」に参加しています。同イベントを通じて、積水ハウスグループとして119万8867円を寄付しました。

2004年から「世界のこどもを救おう実行委員会」主催により「こどもの日チャリティイベント」を開催しています。人類共通の宝であるこどもを、自分（自国）の子、他人（他国）の子の区別なく等しく大切に思い、自ら行動することで、世界のこどもたちを救おうという趣旨で実施しており、2016年度で13回目となりました。自然災害・干ばつ・感染症・武力紛争などによって、世界の各地で多くのこどもたちが困難に見舞われている実情を知り、その状況を改善するための第一歩として、会場での募金とともに未使用切手・未使用はがき・書き損じはがき・外国の紙幣やコインを持ち寄って換金し、こどもたちを救う一助とします。

会場では、多彩なステージアトラクションをはじめ、遊んで学べるワークショップ、ワンコインバザー、世界のこどもの現状を伝える写真パネル展、こども支援団体の活動紹介などが行われ、3日間で計1万人が来場しました。

イベント開催に先立ち、積水ハウスグループ社員に呼び掛けしたところ、全国から多くの寄付金および切手・はがき・外国通貨などが集まりました。イベント全体の寄付総額は171万7363円（うち積水ハウスグループ119万8867円）に上りました。寄付金は大阪ユニセフ協会を通じて、保健や衛生、教育支援など、世界のこどもたちの生命と健やかな成長を守るための資金として役立てられています。

※ 大阪ユニセフ協会、認定特定非営利活動法人トゥギャザー、梅田スカイビル商店会、大阪新梅田シティライオンズクラブ、積水ハウス株式会社、積水ハウス梅田オペレーション株式会社で構成。



集まった切手・はがき・外国通貨などを大阪ユニセフ協会に寄贈

### 社会貢献 | 地域社会への貢献

## 社会貢献活動社長表彰

積水ハウスグループでは、2005年度から社員の社会貢献活動を社長表彰として顕彰しています。2016年度は「『東京グリーンシップアクション』八王子滝山・八王子大谷地域里山保全活動」「グリーンファーストで森林保全活動」「ボランティアによる『水源の森』（赤城山南面）整備事業」「和歌山県『積水ハウスの森』による環境保全と地域振興活動」「地域に口コミで広まった学習施設としての夢工場」「子育て世帯、高齢者世帯および周辺地域住民等との世代間交流の促進」の6件を「社会貢献活動社長特別賞」として表彰。また「地域ボランティア（児童会館の補修・清掃および沿道清掃）」の取り組みに対し「感謝状」を授与しました。

社会貢献活動社長表彰の目的は、社員の社会貢献活動を奨励し、社会貢献意識の高い企業文化の醸成に寄与しようとするものです。社会への貢献性、地域との密着または社外との協働、活動の継続性、社内外に及ぼす影響（波及性）、社会からの評価などの観点から、その取り組みが特に顕著であるものを「社会貢献活動社長特別賞」として表彰します。また、表彰外であっても、社長名の「感謝状」を授与する場合があります。受賞した取り組みは、社内誌や社内ホームページ、社内メールマガジンなどで広く周知し、社会貢献活動に対する社員の意識向上につなげています。

### 2016年度「社会貢献活動社長特別賞」

#### 「東京グリーンシップアクション」八王子滝山・八王子大谷地域里山保全活動

「東京グリーンシップアクション」とは、東京都条例に基づき、都内に残る貴重な自然地を守るために、東京都、NPO、企業とが連携して行う自然環境保護活動です。当社では2013年から年2回（春・秋）の活動を継続しています。活動場所は東京都八王子北部に位置する里山保全地域で、長年の管理不足により侵入した外来種の木々の伐採や倒木処理等を、多様な生き物の生息空間に配慮しながら行っています。2016年度は水田を復活させ、さまざまな生物相を呼び戻し、「エコ・ファーストの約束」にもある生態系ネットワークの復活推進を果たすことができました。

（「東京グリーンシップアクション」里山保全活動の会）

#### グリーンファーストで森林保全活動

埼玉県内に建築する環境配慮型住宅「グリーンファースト」の売り上げの一部を、2010年から継続して「彩の国みどりの基金」に寄付しています。「グリーンファースト」1棟につき2000円を寄付し、これまでの取り組み累計は1000万円を超えました。この基金を埼玉県内の森林の保全整備や身近な緑の保全・創出（植樹）などに役立てていただいています。また、毎年6月に実施している「住まいの夢博」では、埼玉県ブースにおいて県職員による苗木のプレゼントを積極的に行っていたがき、植樹運動アピールを協働で進めています。

（埼玉営業本部「彩の国みどりの基金」環境推進グループ）



## ボランティアによる「水源の森」（赤城山南面）整備事業

本事業は「松枯れ」により荒廃した山を健全な森林に復元する活動を通して、利根川上流域に位置し、多量の伏流水を有する赤城山南面を水源涵養機能の高い森林にすること、また、森林保全の必要性に対する理解を深めることを目的に、2013年から継続しています。具体的には、地域に合った苗木の植え付けを前橋支店・高崎支店の社員、群馬セキスイハウス会のメンバーやその家族とともに年1回、除草活動を委員会メンバーで年2回行っています。

(群馬セキスイハウス会 CSR委員会)

## 和歌山県「積水ハウスの森」による環境保全と地域振興活動

和歌山県では、企業が地元の森林所有者から土地を借り受け、植樹や下草刈りに継続して参加することで、手入れが行き届かず荒れたまま放置されている森林を保全する「企業の森」活動を推進しています。当社は2006年春に2.6ヘクタールを借り受け、荒天中止などがない限り、毎年春・秋に植栽や下草刈りを実施。10年間で18回、延べ1526人が参加して「5本の樹」計画に基づく生態系に有用な樹木約6000本を植栽し、手入れしてきました。2016年には、県の依頼を受けて新たに1.6ヘクタールを借り受け、70人が参加し、森林組合の協力を得て3250本を植栽しました。

(和歌山支店・本社等連携による森林保全活動の会)

## 地域に口コミで広まった学習施設としての夢工場

2005年から富山県内の学校や消防署に協力し、「北信越 住まいの夢工場」を活用した地域・教育貢献活動を継続しています。県内中学2年生必須の職業体験「社会に学ぶ14歳の挑戦」で消防業務を希望した生徒を受け入れ、地震・火災・大雪等の災害体験を実施しているほか、富山県内の婦人防火クラブの研修、工業化（住宅）について学ぶ小学5年生の社会学習、中学校の家庭科教諭研修などで活用。子どもたちや地域の防災リーダーの方々に「環境」や「防災・減災」などのテーマに改めて向き合い、学び、考える機会を提供しています。評判が徐々に口コミで伝わり、現在では県内の複数の消防署・学校へと活動が広がっています。

(「北信越 住まいの夢工場」担当)

## 子育て世帯、高齢者世帯および周辺地域住民等との世代間交流の促進

「マストライフ古河庭園」が竣工した2012年から継続して子育て支援・多世代交流イベントを実施しています。節分や七夕など季節ごとの日本古来の行事に加え、ハロウィーンやクリスマス、秋には屋上庭園で栽培しているサツマイモの収穫祭などを開催することにより、子育て世帯・高齢者世帯の交流を促し、居住者同士の親睦を深めることに成功。集会所を利用した居住者主体の催しも行われるようになりました。また、地元の神社や自治会と連携して祭礼のイベントを共催するなど、地域住民との交流の機会を増やし、地域コミュニティの活性化にも一役買っています。

(「マストライフ古河庭園」子育て支援・多世代交流イベント推進チーム)

## 2016年度「感謝状」

### 地域ボランティア（児童会館の補修・清掃および沿道清掃）

松本積水ハウス会会員、松本支店およびグループ会社の社員が連携し、日ごろの恩返しの気持ちを込め、地域の安全・安心と快適な環境づくりをお手伝いすべく、年1回の一斉ボランティアを実施しています。具体的な活動内容は、松本市内の児童センターの雨どい・外壁などの補修および清掃、周辺道路のゴミ拾いなど。各施設の関係者からは「普段は手が回らない個所まで丁寧に点検し、修理していただき、本当に助かる」と感謝の言葉をいただいています。

(松本積水ハウス会・松本支店・グループ会社社員)

社会貢献

## 障がい者の自立と社会参加を応援

積水ハウスグループでは、住宅メーカーという、あらゆる人々の生活に携わる企業として、また、企業理念の根本哲学である「人間愛」に立脚した企業活動の一環として、社外と協働・共創しながら障がい者の自立と社会参加を応援しています。

### SELP（セルフ）製品※の積極活用

積水ハウスグループは、SELP製品をノベルティーグッズとして継続的に活用することで、障がい者の自立と社会参加を支援しています。

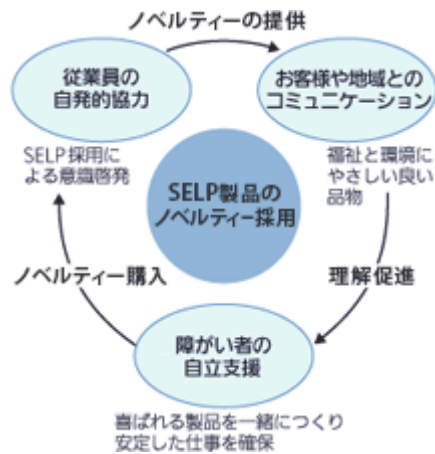
2000年から、認定特定非営利活動法人トゥギャザーと協働。全国各地の障がい者福祉施設でつくられた製品を購入し、ノベルティーグッズとして日本全国積水ハウスデー「住まいの参観日」などの各種イベントや展示場の来場者にお渡ししています。お客様や地域の方々とのコミュニケーションの機会に活用することで、社員の意識啓発にもつながっています。

2016年度は、SELP製品をノベルティーグッズとして全国で計2万4166個採用しました。これまでの採用実績は累計31万個を超えています。

※ 障がい者が社会福祉施設において、リハビリテーションや職業訓練、社会参加の実現を目的に働き、つくる製品のことで。

「SELP」は英語のSelf-Help（自助自立）からの造語です。

また、Support（支援）、Employment（就労）、Living（生活）、Participation（社会参加）の頭文字から成る語ともされています。



■ 過去5年間のSELP製品の採用実績

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
35,045個	30,394個	24,869個	29,595個	24,166個



定番のエコバッグ



吸水性に優れ、使いやすい蚊帳ふきん



家の形のカードホルダー。木製と陶製があります



東日本大震災被災地で生産されているキャンドル

2016年12月1日から12月12日まで、梅田スカイビル（大阪市北区）で「障害者週間協賛行事」が開催されました。2005年から毎年開催されており、今回で12回目となりました。大阪における障害者週間の恒例行事として定着しています。積水ハウス株式会社およびグループ会社の積水ハウス梅田オペレーション株式会社は、この行事を主催する「障害者週間協賛行事大阪実行委員会※」の事務局を務め、企画・運営に参画しています。

12月6日には、障害者の就労と自立、社会参加を目指すことを軸に、行政・企業・NPO・市民が互いに理念を尊重しながら協働関係について考える場として「障害者と社会をつなぐシンポジウム」が開催されました。今回は、発達障害者支援法の改正を受けて、企業等で発達障害者がやりがいを持って生き生きと働ける職場づくりに向けて、課題や対策を議論しました。当日は、行政・企業・経済団体・福祉団体・NPO・障害者当事者や親の会の方々など総勢100人が参加。第1部では、各パネリストがそれぞれの立場から現在の活動状況と課題などを具体的事例を交えて紹介。第2部「パネルディスカッションと質疑応答」では、参加者からの質問票も参考にしつつ、相互に意見交換をしながら、会場全体で「発達障害者が輝く環境づくりに向けて、企業等が具体的に検討・実施すべき方策」を焦点に議論しました。

このほか関連行事として「みんなでつくる共生社会パネル展」（大阪府下の小中学生による「障害者週間のポスター」「心の輪を広げる体験作文」の優秀作品を展示）、「障害者の社会参加を支援する企業展示会」（雇用・製品・サービスなどを通じて障害者の自立と社会参加を支援する企業・NPOなどの取り組みを紹介）、「『コラボ・アート21』公開展示会」（障害者による芸術作品展。応募総数404点の中から選ばれた優秀作品18点を展示）、「ふれあいトゥギャザー ～障害者による手づくり作品展・販売会～」(全国の障害者施設でつくられた雑貨・おもちゃ・食品などを展示・販売)、「とっておきのさをり展」（全国の障害者施設から寄せられた「さをり織り」の作品を展示・販売）を実施。期間中の総来場者は約4万人に上りました。

※ 公益社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所、一般社団法人関西経済同友会、社会福祉法人大阪ボランティア協会、社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会、認定特定非営利活動法人トゥギャザーで構成。

### 「障害者と社会をつなぐシンポジウム」 障害者の就労と自立を支援する社会づくりのために ～発達障害者支援法改正を受けて～

#### ●基調講演「発達障害者が輝く職場づくりに向けて」

##### 【講師】

松上 利男氏（社会福祉法人北摂杉の子会 理事長）

#### ●パネルディスカッション「発達障害者が輝く職場づくりに向けた課題と対応を考える」

##### 【パネリスト】

亀田 峻宣氏

渡海 寛氏（日本新薬株式会社 人事部人事課 課長）

松上 利男氏（社会福祉法人北摂杉の子会 理事長）

村田 淳氏（京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム チーフコーディネーター〈助教〉）

##### 【コーディネーター】

早瀬 昇氏（実行委員長、社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事）



シンポジウムの会場には手話通訳が入り、点訳の資料も用意



「障害者の社会参加を支援する企業展示会」の積水ハウスブースでは、障がいに配慮した住まいづくりと、社外との共創による障がい者支援の取り組みを紹介

社会貢献

## 芸術文化発信の拠点となる「絹谷幸二 天空美術館」

積水ハウスは、芸術文化振興による社会創造を目指し、日本のアフレスコ画の第一人者であり、世界を舞台に活躍する画家、絹谷 幸二氏の「絹谷幸二 天空美術館」を本社のある梅田スカイビルに2016年12月23日に開設しました。

当社は、芸術文化振興による社会創造を目指し、日本のアフレスコ画の第一人者であり、世界を舞台に活躍する画家、絹谷幸二氏の「絹谷幸二 天空美術館」を本社のある梅田スカイビル（タワーウエスト27階）に2016年12月23日に開設しました。

絹谷氏は、絵画創作活動にとどまらず、外務省主催の「日本ブランド発信事業」に参加、教育活動として若手画家対象の「絹谷幸二賞」の創設にかかわり、また文化庁の「こども 夢・アート・アカデミー」にも参加されています。当社はこれらの絹谷氏の幅広い活動・思想に共感し、当美術館で芸術文化支援を行っています。

「絹谷幸二 天空美術館」は、象徴的なプロローグ展示と、3D映像による絵画の世界を空間として体験できる「シンボルゾーン」、絵画のイメージに合わせた青や赤の「展示ゾーン」、制作過程の絵画も見ることができる「アトリエ」、子どもの絵画教室などを開催する「ワークショップスペース」などで構成されています。

国内だけでなくインバウンドに対しても、世界的観光スポットとなる強力なコンテンツとして、独創性にあふれた唯一無二の美術館をつくることで、「四半世紀を超え、半世紀に向けてさらに魅力を増していくビル」として、梅田スカイビルの価値向上を図り、関西を代表する観光資源として、地域にも貢献していきます。

梅田スカイビルは1993年3月に竣工した、40階建て二棟連結の斬新なデザインの、オフィスと商業施設からなる複合施設です。2008年、英国タイムズ紙で「世界の建築物20選」として紹介され、世界の観光客の注目を集めています。最上部の「空中庭園」には、2016年度は過去最高の139万人（うち海外から101万人）が来場しました。



梅田スカイビル（外観）



シンボルゾーン

## ■ 絹谷 幸二氏 プロフィール

---

1943年生まれ。奈良県出身。

東京藝術大学卒業。日本藝術院会員、独立美術協会会員、東京藝術大学名誉教授。

1974年 「アンセルモ氏の肖像」（東京国立近代美術館蔵）で安井賞受賞

1976年 「アンジェラと蒼い空Ⅱ」（東京国立近代美術館蔵）

1986年 「チェスキーニ氏の肖像」（奈良県立美術館蔵）

1987年 日本芸術大賞受賞

1997年 「銀嶺の女神」長野冬季五輪公式ポスター原画制作

2001年 「蒼穹夢譚」で日本芸術院賞受賞

2013年 「祝・飛龍不二法門」

2014年 文化功労者

2015年 「黄金背景富嶽旭日 雷神・風神」

### 【関連項目】

---

> [「絹谷幸二 天空美術館」ホームページ](#) 

> [絹谷 幸二 氏のホームページ](#) 

社会貢献

## 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

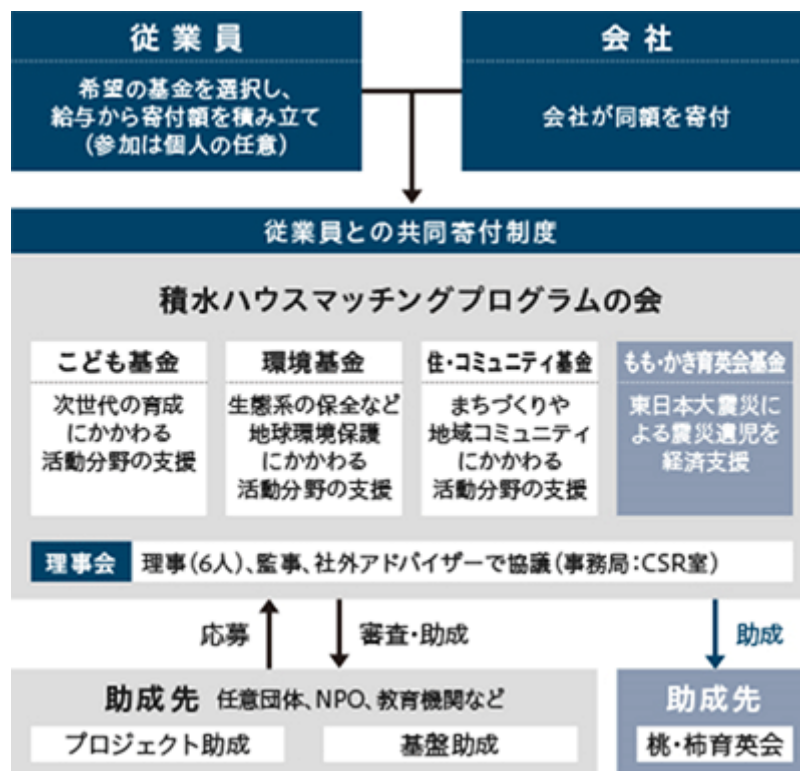
従業員と積水ハウスとの共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を2006年度より開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。2016年度は、合計26団体2384万円の助成を実施しました。

当社は、従業員と当社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」（会員数約3600人）を2006年度から開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。この制度は、従業員が給与から、希望する金額（1口100円）を積み立て、それに会社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」と「環境基金」の二つの基金をはじめ、2011年には東日本大震災による震災遺児を経済支援する「もも・かき育英会基金」を設置。そして2015年には制度創設10年を節目に、「住・コミュニティ基金」を設置しました。「こども基金」「環境基金」「住・コミュニティ基金」については、会員代表で構成する理事会で支援先を決定しています。



2016年度は、「こども基金」13団体（プロジェクト助成11団体・基盤助成2団体）に1350万円、「環境基金」11団体（プロジェクト助成8団体・基盤助成3団体）に864万円、「住・コミュニティ基金」2団体（プロジェクト助成2団体）に170万円の合計26団体2384万円の助成を実施。また、「もも・かき育英会基金」では、2016年度に1360万円（累計：6900万円）を寄付。これまで延べ200団体に2億円を超える助成を実施しています。

### 「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み





# 団体に対する基礎的支援「基盤助成」も実施

申請があった個々のプロジェクトに対して助成する「プロジェクト助成」と、団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員拡大などの取り組みに助成する「基盤助成」の2種類を実施しています。「基盤助成」は、資金使途に制約が少なく、団体の基盤強化に幅広く活用できることから、これまでに基盤助成を実施した団体からも好評です。

また、基盤助成団体に対しては、協働事務局の社会福祉法人 大阪ボランティア協会による「基盤的支援」にかかわるヒアリング、コンサルティングを行っています。

# 制度創設10周年記念冊子を発行

2015年度で、「積水ハウスマッチングプログラム」が制度創設10周年目を迎えたことを節目に、記念冊子を発行しました。「こども基金」「環境基金」から助成した各4団体を紹介し、助成金を受けての活動内容、会員に向けたメッセージを掲載しています。他にも、理事会の様子や理事メンバーの顔写真、コメントを紹介するとともに、過去10年間の助成団体、助成実績を一覧やグラフで表現し、10年間の実績を掲載しています。



全ページ閲覧 → [click](#)

## 2016年度 助成団体 ※助成時の内容

### ■ プロジェクト助成（こども基金）・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
認定NPO法人 アジアチャイルドサポート プロジェクト名： 水と電気で守る子どもたちの命を支える未来	100万円
認定NPO法人 SOS子どもの村 JAPAN プロジェクト名： 続・里子のための「遊びを通じた心のケアプログラム」	80万円
認定NPO法人 幼い難民を考える会 プロジェクト名： カンボジア「村の幼稚園」プロジェクト～農村の子どもたちに幼児教育を～	150万円
NPO法人 コドモ・ワカモノまちing プロジェクト名： 移動式「防災あそび」楽校～もしもから“いつも”へ～	100万円
認定NPO法人 シェア＝国際保健協力市民の会 プロジェクト名： カンボジア農村地域における栄養不良児支援プロジェクト	100万円
チーム ピース チャレンジャー プロジェクト名： 学校に通えない子どもたちのためにプレスクールを建築し学びの場を作る	100万円
認定NPO法人 地球市民の会 プロジェクト名： ミャンマー連邦共和国、シャン州・ピンラウン郡、ルエエー村における小学校建設プロジェクト	160万円
認定NPO法人 チャイルドライン支援センター プロジェクト名： 子どもの声を聴いて・伝えて・社会で子育て支援	100万円
NPO法人 西淀川子どもセンター プロジェクト名： 子どもに寄り添うつどいの家事業～いっしょにほっこりプロジェクト（レスパイトケア）～	150万円
NPO法人 にじいろクレヨン プロジェクト名： 復興公営住宅で暮らす親子のためのほっこりアートプロジェクト	120万円
NPO法人 パクト プロジェクト名： 陸前高田市内における子どもの居場所づくり活動『みちくさルーム』の実施	150万円

## ■ プロジェクト助成（環境基金）・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
公益財団法人 オイスカ プロジェクト名：タイ農村部における子どもたちの植林活動支援を通じたふるさと再生プロジェクト	100万円
認定NPO法人 共存の森ネットワーク プロジェクト名：被災地宮城県での森林環境教育推進事業 「第3回学校の森・子どもサミット」実施	80万円
NPO法人 自然環境アカデミー プロジェクト名：八王子滝山里山保全地域での里山サイクル復元活動	100万円
NPO法人 棚田LOVER's プロジェクト名：棚田・生態系保全、エココミュニティ普及啓発プロジェクト ～古民家を活用して、地域全体で大人・子どもたちと学び、成長し、活動の自立を目指す～	100万円
認定NPO法人 トゥギャザー プロジェクト名：障害者のグループホームで実現する、花と緑のコミュニティづくり	160万円
NPO法人 日本チョウ類保全協会 プロジェクト名：庭のチョウ類調査の普及活動	70万円
NPO法人 広瀬川の清流を守る会 プロジェクト名：広瀬川ふれあいイベント「政宗さんの川狩り」夏の陣 秋の陣	34万円
NPO法人 森のライフスタイル研究所 プロジェクト名：千葉県山武市蓮沼殿下海岸林の再生～海岸林の機能拡大をめざした林帯幅拡張活動 パート2～	160万円

## ■ プロジェクト助成（住・コミュニティ基金）・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
NPO法人 伊勢河崎まちづくり衆 プロジェクト名：伊勢河崎・歴史的町屋リノベーションモデル事業2016	70万円
一般社団法人 キャンナス東北 プロジェクト名：「地域でまるっと大家族プロジェクト」	100万円

## ■ 基盤助成・・・団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員の拡大など今後の発展に期待して助成（上限20万円）

こども基金	環境基金
えんがわの家 よってこしもだ	認定NPO法人きょうとグリーンファンド
NGOモザンビークのいのちをつなぐ会	NPO法人こが里山を守る会
	里山的暮らし ECO TASK TEAM

■ これまでの助成実績（プロジェクト助成・基盤助成）の合計金額

	こども基金		環境基金		住・コミュニティ基金		合計	
	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数
2012年度 	960万円	12	700万円	9	-		1,660万円	21
2013年度 	1,070万円	10	970万円	12			2,040万円	22
2014年度 	1,241万円	15	889万円	12			2,130万円	27
2015年度 	1,218万円	12	1,060万円	13			2,278万円	25
2016年度	1,350万円	13	864万円	11	170万円	2	2,384万円	26

社外からの評価

2010年

第4回キッズデザイン賞（ソーシャルキッズサポート部門）受賞

（主催：NPO法人キッズデザイン協議会）



社会貢献

災害義援金

2016年度は、4月に発生した「熊本地震」について義援金を募集。全国の積水ハウスグループ社員および協力工事店の皆様から総額1729万4992円が寄せられました。

積水ハウスグループでは、国内外で大規模な自然災害などが発生した際、コーポレート・コミュニケーション部CSR室が窓口となり、社員に向けて、救援活動や被災地の復旧活動などに役立てていただくための災害義援金への協力を呼び掛けています。

2016年4月、熊本県熊本地方を震央とする強い地震が発生し、甚大な被害が出ました。被災地の復旧・復興、被災者の生活再建に役立てていただくための義援金を募ったところ、全国の積水ハウスグループ社員および協力工事店の皆様から総額1729万4992円が寄せられました。集まった義援金を分配し、熊本県に500万円、熊本市に500万円、大分県に100万円、日本赤十字社に629万4992円を寄付しました。

■ 過去6年間の義援金の実績

年度	義援金名	金額	総額
2011年度	「オーストラリア洪水」義援金	2,104,297円	90,249,438円
	「ニュージーランド地震」義援金	1,981,666円	
	「東日本大震災」義援金	82,989,208円	
	「台風12号および15号」義援金	3,174,267円	
2012年度	「九州北部豪雨」義援金	3,502,942円	3,502,942円
2013年度	「フィリピン台風」義援金	5,135,608円	5,135,608円
2014年度	「近畿北部および広島豪雨」義援金	7,427,300円	7,427,300円
2015年度	「ネパール地震」義援金	5,548,851円	11,945,778円
	「関東および東北豪雨」義援金	6,396,927円	
2016年度	「熊本地震」義援金	17,294,992円	17,294,992円

### 社会貢献

## 自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み

2016年もわが国は、熊本地震・鳥取県中部地震、記録的大雨や台風上陸など数多の自然災害に見舞われました。国連大学が世界171カ国を対象に自然災害に見舞われる可能性や対処能力を評価した「世界リスク報告書2016年版」によると、日本は「自然災害に見舞われる可能性」が4位（総合順位では17位）にランク付けされるなど、自然災害のリスクが高くなっています。

自然災害による被害を防ぐこと（防災）、軽減すること（減災）は、住まう人の生命や財産、暮らしを守る事業に特化した戦略を推進する当社グループにとって重要なテーマの一つと認識しています。その一方で、自然災害が発生した場合の被災者の安否・被害情報の確認や支援体制の確立などに、迅速に対応することも住宅メーカーとして必要であると考えています。

### 東日本大震災からの復興に向けて

当社グループは、東日本大震災発生直後から被災地のお客様を速やかにサポートし、その状況に合わせて、復旧・復興工事並びに、仮設住宅や災害公営住宅などの建設に取り組んできました。2017年3月で東日本大震災より6年が経過し、5年間と国が定めた「集中復興期間」が終了、現在は、2021年3月までの「復興・創生期間」に位置付けられています。しかし今なお多くの被災者が避難生活を余儀なくされています。

復興の為には、仮設住宅退去後の住まい確保が困難な方のための公的賃貸住宅「災害公営住宅」の早期整備が急務であり、当社はグループの総力を挙げ、迅速かつ確実に進めています。

### 被災者の新たな暮らし、新たなステージへ 全社を挙げて早期復興を推進

復興計画や復興の進捗は、行政により差があり、それぞれの地域の実情に合わせた暮らしや住まいの提案が必要です。当社グループは地元の施工力と全国からの施工支援により、3県で191棟533戸の災害公営住宅を契約工期内で竣工・引き渡しており、行政から施工力を高く評価されています。

従来、請負での在来木造・鉄筋コンクリート造での建築が主流だった災害公営住宅に、高品質で工期の短い当社オリジナル構法を含む軽量鉄骨造が認められました。最近では、自由度が高く工期の短い当社オリジナル重量鉄骨造「βシステム」による大型物件も増えています。

今後も当社の技術力・提案力・施工力により、安全・安心・快適な、入居者に喜んでいただける災害公営住宅の供給に取り組んでいきます。

また、震災より6年が経過し、エリアごとに復興状況も変化しています。宮城県・岩手県は災害公営住宅の整備も終盤戦となってきています。被災された方々に早期にお住まいいただけるよう、引き続き確実に進めていきます。

福島県では、原発避難エリアにおける帰還に向けた復興拠点（コンパクトタウン）づくりが加速化しています。当社も複数の地区にて、まちづくりで培ったノウハウを生かし復興拠点づくりに参画しています。同時にスマートタウンへの取り組みも始めており、日本初のスマートグリッドを実現した宮城県東松島市での実績を生かし、積極的に提案しています。これからも福島県に帰還する方々にとって、よりよい復興拠点づくりを目指し、取り組んでいきます。

	落札実績	竣工実績
2012年度	4棟 26戸	-
2013年度	84棟 285戸	4棟 26戸
2014年度	124棟 211戸	16棟 53戸
2015年度	126棟 184戸	116棟 382戸
2016年度	46棟 301戸	55棟 72戸
合計	384棟 1007戸	191棟 533戸

## 災害公営住宅 実例

### ① 宮城県気仙沼市九条地区災害公営住宅 (2016年11月竣工)

- ◇構造 重量鉄骨造 βシステム
- ◇棟数 1棟18戸+集会所1棟 (NB)  
(2DK:9戸, 3DK:6戸, 4DK:3戸)
- ◇延床面積 1,516.45m<sup>2</sup> (458.73坪)



### ② 宮城県気仙沼市館山地区災害公営住宅集会所 (2016年5月竣工)

- ◇構造 軽量鉄骨造 (NB) 平屋
- ◇棟数 コミュニティ施設 (集会所) 1棟
- ◇延床面積 81.08m<sup>2</sup> (24.52坪)



## 総合職入社 of 全入社員が被災地復興支援活動に参加

東日本大震災の翌年（2012年）から、総合職入社 of 全入社員が交代で被災地復興支援活動に取り組んでいます。本活動は、被災地のニーズに基づく支援とともに当社の「企業理念」や「行動規範」に基づく相手本位の考え方・行動を身につけ、住宅事業の意義について理解を深めることを目的としています。

現地で活動するNPO法人と連携して、支援ニーズを聞きながら班ごとに自分たちでどのような支援ができるかを考えて行動。2016年は、2015年同様、仮設住宅や集会所の清掃に注力するとともに入居者とのコミュニケーションを図りました。

2017年度の新入社員も4月から順次参加しています。（2017年は、熊本地震被災地においても復興支援活動を実施）

2012年度	347人
2013年度	566人
2014年度	460人
2015年度	390人
2016年度	323人
5年間の合計参加人数	2,086人



「がんばろう石巻」の前で黙とう



仮設住宅の集会所で入居者の方々と「お茶っこ」



## 熊本地震からの復旧・復興

2016年4月の熊本地震では、M6.5の大地震（前震）の後にさらに大きな本震（M7.3）が発生しました。日本の地震観測史上初めて、一連の地震活動において「震度7」が繰り返し観測された、これまでにない大地震となり、多数の死傷者が出るとともに、家屋の全半壊や一部破損が相当数発生するなど、広いエリアで甚大な被害となりました。

熊本県下の当社住宅1万246棟について、人的被害や家屋の全半壊はありませんでしたが、お客様に一日も早く平穏な暮らしを取り戻していただけるよう、復旧・復興に取り組んでいます。東日本大震災発災時の初動対応を教訓に、前震直後に、九州営業本部に「連携対策本部」を、続いて熊本に「現地対策本部」を設置しました。まず、被災地域の社員とその家族の安否や被災状況を確認。約1万件のお客様の被災状況の確認を6月上旬には完了することができました。被災地エリアの初動対応が適切かつ迅速だったこと、工場や本社の備蓄物資が速やかに届けられたこと、全国からの施工・技術支援体制が速やかに整ったことやiPadを活用したオリジナルアプリによる被災情報の共有が図れたことなどが奏功した結果であると考えています。復旧段階から復興段階へと移行した現在は、基礎や構造などの大規模な工事や復興住宅の建築にグループを挙げて取り組んでいます。



朝礼で前日の報告と当日の動きを確認



お客様のお宅を訪問する前の最終確認



補修工事

## 鳥取県中部地震でも迅速に初動対応

2016年10月には、鳥取県中部を震源とするM6.6、最大震度6弱の鳥取県中部地震が発生。住宅の屋根瓦や壁が崩壊する被害が相次ぎ住宅の全壊2棟、半壊3棟、一部破損1万33棟が確認されました。地震発生直後からグループを挙げて対応に当たった結果、3日後にはお客様の安否と被災状況の確認を完了することができ、震度6弱エリアには796棟、震度5強エリアには3685棟の当社オーナー様宅がありましたが人的被害や家屋の全半壊はありませんでした。

その他の自然災害においても、サポート体制を速やかに編成し、必要に応じたお客様支援を迅速に行っています。

## 被災地への社内旅行を推奨

東日本大震災や熊本地震の被災地で「住まう人の生命・財産・暮らしを守る」という住宅会社の使命を再認識するとともに、被災地域での消費行動による経済支援を目的に、東北3県（岩手県・宮城県・福島県）や熊本県・大分県への社内旅行を開催する場合、会社が費用の一部を補助する制度を運用しています。2017年1月末までに、延べ133事業所6936人が本制度を利用しました。



熊本城をバックに集合写真（埼玉東支店の社内旅行）

	東北3県（岩手県・宮城県・福島県）	熊本県・大分県
2016年度	14事業所 887人	14事業所 541人
累計	119事業所 6395人（2011年より運用）	14事業所 541人

## 「企業マルシェ」などを開催し、被災地域の企業の商品を購入して支援

当社グループは、東日本大震災で被害を受けた地域の企業が抱えている課題を解決するために、大手企業等の経営資源を被災地域の企業と効果的につなぐ「地域復興マッチング『結の場』」（主催：復興庁）に積極的に参加しています。その一環として、本社では被災地域の企業の商品を購入し支援する即売会「企業マルシェ」を定期的で開催しています。

その他にも、当社が主催する販促イベントに被災地域の企業にブース出展いただき、来場者に購入していただく機会なども設けています。



「企業マルシェ」の様子

### 【関連項目】

- > [自然災害発生時の対応](#)
- > [災害時の復旧支援体制](#)